

**2023 (令和 5) 年度**

**経済・経営学演習  
経済工学演習**

**募 集 要 項**

**九州大学経済学部**

## < 目 次 >

1. はじめに	1
2. ゼミ応募の際の注意	2
(1) 両学科共通の注意事項	2
a. ゼミは必修	2
b. ゼミの人数	2
c. ゼミの募集は第1次、第2次の2回に分けて行われます	2
d. 4年次以降から演習に参加する場合	2
e. 複数のゼミへの参加申込み	2
f. 高年次で留学を希望する場合	2
(2) 個別の注意事項	3
a. 経済・経営学科の皆さん	3
b. 経済工学科の皆さん	3
c. 21世紀プログラムの皆さん	3
d. 文系4学部副専攻プログラムの単位として履修希望の文系他学部の皆さん	3
3. ゼミ募集スケジュール	4
4. ゼミ説明会日程一覧	5
5. 推奨科目一覧（経済・経営学科のみ）	7
6. 教員別ゼミ募集要項	8
* 経済・経営学演習（経済分析系）	9
* 経済・経営学演習（産業分析系）	20
* 経済・経営学演習（企業分析系）	31
* 経営工学演習	40

## 1. はじめに

2006年度に九州大学経済学部が導入したカリキュラムは、全国の主要大学のカリキュラムの研究を通じてその良き部分を取り入れ、なおかつ九州大学経済学部蓄積されてきた独自の研究成果が反映されるように工夫された、オリジナルで体系的なカリキュラムです。

このカリキュラムは、基本科目の体系的配置、大学院への進学容易化(学部・学府一貫教育プログラム)などのほか、3年次以上の演習(以下「ゼミ」と表記)が必修科目となっている点に、大きな特色があります。また2007年度からのGPA制度の全学的導入にあわせて、経済学部の修学指導体制も強化され、3-4年次の学生はゼミの指導教員が学生の修学や大学生活上の指導を担当することになりました。

これらのシステムにより、「経済学部にとりあえず入学したが、経済学になかなか興味を見出せない」「友人と何かと一緒に取り組んで頑張りたいがそのような機会がなかなか無い」など、これまでの経済学部で先輩の一部が直面してきた問題を、学生諸君と教員と一緒に解決していくことが期待されます。

Seminarとは、19世紀にドイツの大学で導入されて以来(そのためセミナーではなくゼミナールと呼びます)、全世界で広範に採用されている大学教育の普遍的な実施形態の一つです。最近「社会性」や「問題発見や解決スキル」を重視する企業が多く、大学での少人数教育がますます重視される傾向にあります。九州大学経済学部のゼミは、教員1名に対して学生が1学年約10名以下の密度の高い少人数教育となります。こうした性格から、同じ「単位」という成績認定方法を採用していますが、通常の講義とゼミとでは、その意味内容が大きく異なります。「どのゼミに入るか」によって、「大学で何を学んだか?」のみならず「大学で何をしたか?」が決まるといっても過言ではありません。

皆さんは、この募集要項に記載された「2.ゼミ応募の際の注意」や「3.ゼミ募集スケジュール」などを熟読のうえ、「6.教員別ゼミ募集要項」でできる限り多くのゼミを比較検討し、経済学部HPに掲載される「演習参加申込書」をダウンロードのうえで応募してください。希望するゼミへのチケットが入手できることを祈念しています。

## 2. ゼミ応募の際の注意

### (1) 両学科共通の注意事項

#### a. ゼミは必修

2006 (H18) 年度入学生より実施のカリキュラムでは、高年次の演習(経済・経営学演習、経済工学演習)は必修科目です。経済・経営学科では8単位、経済工学科では4単位を取得しないと卒業できません。4月になって新年度の演習の履修登録が可能となるのは、募集要項の3で示すスケジュールに従ってゼミに応募し、事前に指導教員から入ゼミを許可された人だけです。従って、皆さんは必ず本冊子を熟読のうえ、手続きに従ってゼミへの受入内諾を各担当教員から得てください。

#### b. ゼミの人数

ゼミには、学年毎の主演習としての参加可能人数の上限が設定されており、経済・経営学科では第1次募集が10名、第2次募集が1次募集での受講決定数と合わせて10名、経済工学科では第1次募集が約10名、第2次募集が第1次募集での受講決定数と合わせて約10名となっています。

従って受講希望者がその人数を越えた場合には、演習参加申込書による選抜が必ず行なわれることとなります。また、受講希望者が上記定員以下の場合でも、申込者が一定数に達した演習では選抜が実施されます。

#### c. ゼミの募集は第1次、第2次の2回に分けて行われます

第1次募集時にはゼミを1つ選び、「演習参加申込書」を1枚提出します。第2次募集時にはゼミを2つ選び、「演習参加申込書」を2枚(第1希望および第2希望)を提出します。

#### d. 4年次以降から演習に参加する場合

4年次からゼミへの参加を希望する学生は、3-4年次が別の時間帯に設定され演習内容が異なるゼミもありますので、「演習参加申込書」の所定欄に、参加を希望する演習が、①3年次を対象とするものか、②4年次を対象とするものかについて必ず記入してください。

#### e. 複数のゼミへの参加申込み

複数のゼミを受講することも可能です。

① 新3年生: 「3. ゼミ募集スケジュール」に示す第1次および第2次募集で、まず自分の専攻する学科の中から、自分にとって主となる演習(=主演習)に応募してください。主演習の結果発表後、3月以降に参加を希望する副演習の担当教員へ「演習参加申込用紙(副演習用)」を提出し、演習参加の許可を得てください。(教員から許可を得た学生だけが4月からの演習に参加することができます。)

② 新4年生: 既に3年次で演習を受講している学生が、4年生になってから「副演習」に応募することも可能です。その場合、主演習の結果発表後の3月以降に、参加を希望する副演習の担当教員へ直接相談のうえ「演習参加申込用紙(副演習用)」を提出し、演習参加の許可を得てください。(教員から許可を得た学生だけが4月からの演習に参加することができます。)

なお、「副演習」に関しては、自分が所属する学科とは異なる学科の演習に応募することも可能です。それぞれのゼミが「副演習」として応募可能かどうかは、第2次募集の採用結果を掲示する際に、学年別に掲示します。(副演習を募集するゼミと募集しないゼミがありますのでご注意ください。)

#### f. 高年次で留学を希望する場合

高年次において半年または1年間、海外留学する場合、「演習科目受講願」を学務課(経済担当)にて入手し、記入のうえ担当教員に提出し、教員の了承が得られた場合のみ演習への申し込みができます。

## (2) 個別の注意事項

### a. 経済・経営学科の皆さん

- ① 「主演習」による「系」の自動決定: 経済・経営学科生は、今回のゼミ募集で受入れが決まった「主演習」の担当教員が属する「系」に従って、「経済分析」「産業分析」「企業分析」の三つの「系」への配属が自動的に決まります(『学生便覧』参照)。所属する「系」ごとに、卒業に向け履修すべき「選択必修科目」が異なりますので、履修の際には十分に注意してください。
- ② 4年次で主演習を変更する場合: 3年次の主演習参加により決まった「系」は卒業まで動かさせません。ただし、4年次になってから、3年次に受講した主演習とは異なる演習の受講を希望する学生は、3年次の「主演習」と同一の「系」内で、参加演習を変更することは可能です。希望する学生は、当該年度向けのゼミ募集の際に新たに新4年次生として応募して、受け入れ内諾を得てください。
- ③ 3年次で主演習と副演習の履修により卒業要件を満たした場合: 経済・経営学演習の必修は8単位ですから、3年次であっても主演習4単位と副演習4単位(ただし、経済・経営学演習に限る。)を同時履修して単位を修得すれば、卒業要件を満たすことになります。ただし、ゼミは単位取得だけを目的とするものではありませんから、できる限り3年次から卒業まで通しで受講するようにしてください。(8単位を超えて修得した単位は8単位まで「自由選択科目」に含めることができます。)

### b. 経済工学科の皆さん

経済工学演習の必修は4単位ですから、経済工学科の学生は、①3年次だけ履修、或いは、②4年次以降になってから履修、という受講方法も可能です。ただし、ゼミは単位取得だけを目的とするものではありませんから、できる限り3年次から卒業まで通しで受講するようにしてください。なお、①の場合、早い時期(3年次の1月末まで)に指導教員にその旨を申し出てください。②の場合、上記「(1)d. 4年次以降から演習に参加する場合」に記載されている指示に従ってください。

### c. 文系4学部副専攻プログラムの単位として履修希望の文系他学部の皆さん

横断型プログラムの「グローバル時代のビジネス」及び専門領域型プログラムの「経済学・経営学のツールで解く現代社会の諸課題」を履修しており、経済・経営学演習又は経済工学演習を履修希望の学生については、「副演習」募集の際にゼミ申込をしてください。1次募集、2次募集の際は、応募できません。

参加を希望する副演習の担当教員へ「演習参加申込用紙(副演習用)」を提出し、演習参加の許可を得てください。

### 3. ゼミ募集スケジュール

ここでは、ゼミの応募にあたっての注意と、手続きについて説明します。第1次、第2次募集の申込期限と内定者発表の流れは以下のとおりです。日時など間違わないように注意して応募してください。

#### (1) 主演習の応募

11月中旬～	ゼミ募集要項を、 <b>経済学部ホームページのゼミナール関連情報</b> ( <a href="https://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~seminar/index.php">https://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~seminar/index.php</a> )で公開します。冊子の配布はありません。
11月16日(水)～1月6日(金)	<b>オープンゼミ</b> に参加して、教員や先輩の意見を聞き、応募するゼミを決めてください。なお、オープンゼミを開催するゼミと開催しないゼミがありますので、開催の有無、開催方法(対面/オンライン)、開催の日時・場所等はゼミ募集要項やゼミナール関連情報サイトで確認してください。 <b>(※オープンゼミの開催日と履修している授業が重複する場合は、授業への出席を優先すること。)</b>

(注) **オープンゼミ**とは、通常のゼミの様子(教員とゼミ生とのやりとりや学習内容)を見て感じてもらうために、ゼミの時間を開放する見学会をいいます。**ゼミ説明会**とは、ゼミの特徴や内容などを知ってもらうために特別に開催する懇談会をいいます。

#### 【第1次募集】

1月5日(木)～12日(木) 17:00まで	「演習参加申込書」に記入の上、 <b>指定の方法で提出</b> してください。 <b>演習参加申し込みは一人一ゼミです。二つ以上申し込みした場合は無効になります。</b> <b>また、メールでの提出は認めません。</b>
1月27日(金)	経済学部掲示板及び <b>経済学部ホームページ</b> に第1次募集の内定者名簿を掲示します。 【受入れが未決の学生】→第2次募集での受入れが「可」と表示されているゼミに、必ず応募してください。空きがあれば、第1次募集時と同一ゼミへの再申し込みも可能です。

#### 【第2次募集】

1月27日(金)～2/3日(金) <b>12:00まで</b>	第1次募集内定未決学生は、第1次募集の内定者名簿掲示の際に、第2次募集受入「可」(学年別に表示されるので注意してください)と表示されている演習を選択して、「 <b>演習参加申込書</b> 」を <b>2部(第1希望用および第2希望用)</b> 作成し、指定の方法で提出してください。
	※教員によっては第2次募集期間中に面接を実施することがある。面接を受けられない場合の措置は教員によって異なるので、「演習参加申込書」を提出する前に、希望教員にメール等で確認しておくこと。
2月24日(金)頃、確定次第随時	経済学部掲示板及び <b>経済学部ホームページのゼミナール関連情報</b> に第2次募集の内定者名簿を掲示します。

#### (2) 副演習の応募

2次募集結果発表後(3月中)	副演習は3月中が募集期間となります。副演習への参加を希望する学生は、希望するゼミの教員へ相談のうえ、学務課経済担当ではなく、直接、教員へ <b>演習参加申込書</b> を提出してください。 入ゼミの可・否については、ゼミ教員が決めることになります。 ※副演習を募集するゼミと募集しないゼミがありますのでご注意ください。
4月以降	受け入れが決まった演習に履修登録を行ってください。 (受入れ許可が出ていない演習への登録はできません。)

4. ゼミ説明会日程一覧

学科	系等	教員名	メールアドレス	実施日時			実施形態 (詳細は各教員ページを 確認すること)	実施場所	
				日	曜日	時間			
経済・経営学演習	経済分析	加河 茂美	kagawa@econ.kyushu-u.ac.jp	12月2日	金	16:30-17:30	対面	E-208	
				12月23日	金	16:30-17:30		E-208	
		中石 知晃	*学務課にお問い合わせください	<del>12月9日</del>	<del>金</del>	<del>16:40-17:20</del>	<del>対面</del>	<del>E-617</del>	
				12月16日	金	16:40-17:20	対面	E-617	
				12月22日	木	16:40-17:20	対面	E-617	
		八木 信一	yatsuki@econ.kyushu-u.ac.jp	オンデマンド					
		前田 真一郎	maeda@econ.kyushu-u.ac.jp	12月15日	木	16:40-17:40	ハイフレックス(オンラインと対面)	A-117	
				12月22日	木	15:00-16:00		A-117	
		岩田 健治	iwata@econ.kyushu-u.ac.jp	募集しない					
		清水 一史	shimizu@econ.kyushu-u.ac.jp	11月22日	火	14:50-15:40	対面	E-112	
				12月14日	水	12:10-12:50		大講義室Ⅱ	
				12月20日	火	14:50-15:40		E-112	
		篠崎 彰彦	shino@econ.kyushu-u.ac.jp	12月13日	火	12:10-12:55	対面	E-617	
				12月20日	火	12:10-12:55		E-617	
		水野 敦子	amizuno@econ.kyushu-u.ac.jp	12月20日	火	16:40-17:40	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-617	
	藤井 秀道	hidemichifujii@econ.kyushu-u.ac.jp	12月2日	金	14:50-16:20	対面	E-205		
			12月12日	月	13:00-14:30		E-205		
			12月23日	金	14:50-16:20		E-205		
	奥倉 豊	yokura@econ.kyushu-u.ac.jp	12月15日	木	12:20-12:50	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-211		
			12月22日	木	12:20-12:50		E-211		
	堀井 伸浩	horii@econ.kyushu-u.ac.jp	12月9日	金	12:10-12:50	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-211		
	安田 聡子	yasuda-satoko@econ.kyushu-u.ac.jp	11月30日	水	12:15-12:45	対面	E-211		
			12月21日	水	16:40-17:40		E-211		
	鷺崎 俊太郎	shuntaro@econ.kyushu-u.ac.jp	12月8日	木	12:15-12:45	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-211		
			12月16日	金	12:15-12:45		E-211		
			12月22日	木	16:40-17:40		E-201		
	北澤 満	kitazawa@econ.kyushu-u.ac.jp	11月22日	火	16:40-17:30	ハイフレックス(オンラインと対面)	D-107		
			12月21日	水	12:10-12:50		E-208		
			1月6日	金	16:40-17:30		D-107		
	左近 幸村	sakon@econ.kyushu-u.ac.jp	12月7日	水	12:10-12:50	オンライン	-		
	大坪 稔	otsubo@econ.kyushu-u.ac.jp	12月12日	月	16:30~	対面	E-203		
	岸野 早希	sakishino@econ.kyushu-u.ac.jp	12月9日	金	12:10-12:40	オンライン	-		
			12月20日	火	14:50-16:20	対面	E-204		
	中本 龍市	ryunakamoto@econ.kyushu-u.ac.jp	オンデマンド						
	企業分析	丸田 起大	maruta@econ.kyushu-u.ac.jp	11月29日	火	12:15-12:45	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-208	
				12月22日	木	12:15-12:45		E-208	
		大石 桂一	oishik@econ.kyushu-u.ac.jp	12月5日	月	16:30-17:30	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-112	
		潮崎 智美	shiosaki@econ.kyushu-u.ac.jp	12月19日	月	16:40-17:10	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-208	
		小津 稚加子	ozu@econ.kyushu-u.ac.jp	12月13日	火	15:00-15:45	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-201	
				12月20日	火	15:00-15:45		E-201	
	経済工学演習	藤田 敏之	tfujita@econ.kyushu-u.ac.jp	11月30日	水	12:15-12:45	オンライン	-	
		池下 研一郎	ikeshita@econ.kyushu-u.ac.jp	12月7日	水	12:10-12:40	オンライン	-	
				12月22日	木	16:40-17:10		-	
		山崎 大輔	yamazaki@econ.kyushu-u.ac.jp	11月28日	月	14:50-15:30	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-112	
		瀧本 太郎	takimoto@econ.kyushu-u.ac.jp	12月7日	水	12:20-12:40	オンライン	-	
村尾 徹士		mura@econ.kyushu-u.ac.jp	12月19日	月	12:15-12:45	オンライン	-		
宮崎 毅		tmiyazak@econ.kyushu-u.ac.jp	11月18日	金	16:00-16:30	対面	E-323		
			11月25日	金	9:00-9:30		E-323		
三輪 宏太郎		kotmiwa@econ.kyushu-u.ac.jp	12月21日	水	12:15-12:45	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-211		
浦川 邦夫		urakawa@econ.kyushu-u.ac.jp	12月20日	火	12:10-12:40	対面	E-208		
			1月6日	金	12:10-12:40		オンライン	-	
葉 聰明		yeh@econ.kyushu-u.ac.jp	11月21日	月	15:00-15:30	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-112		
内田 交謹		kuchida@econ.kyushu-u.ac.jp	12月22日	木	13:30-14:30	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-617		
堀 宣昭		hori@econ.kyushu-u.ac.jp	12月23日	金	14:50-15:20	オンライン	-		
室賀 貴徳		kiho.muroga@econ.kyushu-u.ac.jp	11月24日	木	12:10-12:30	オンライン	-		
菅 史彦		f.suga@econ.kyushu-u.ac.jp	11月18日	金	12:15-12:45	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-211		
北原 知就		tomonari.kitahara@econ.kyushu-u.ac.jp	11月28日	月	12:10-12:40	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-204		
大西 俊郎		ohnishi@econ.kyushu-u.ac.jp	11月24日	木	16:40-17:20	オンライン	-		
伊豆永 洋一		izunaga@econ.kyushu-u.ac.jp	11月22日	火	12:15-12:45	オンライン	-		
			11月28日	月	12:15-12:45		-		
小室 理恵		rie.komuro@econ.kyushu-u.ac.jp	12月16日	金	12:10-12:55	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-208		
松本 浩一		k-matsu@econ.kyushu-u.ac.jp	11月22日	火	9:00-10:00	オンライン	-		
古川 哲也		furukawa@econ.kyushu-u.ac.jp	12月2日	金	14:50-15:10	オンライン	-		

## 令和4年度ゼミ説明会 開催時刻・教室

(日付順)

月	日	曜日	時間	経済分析系		産業分析系		企業分析系		経済工学科	
				ゼミ	場所	ゼミ	場所	ゼミ	場所	ゼミ	場所
11月	18日	金	12:15-12:45							菅	E-211
			16:00-16:30							宮崎①	E-323
	21日	月	15:00-15:30							葉	E-112
			9:00-10:00							松本	-
	22日	火	12:15-12:45							伊豆永①	-
			14:50-15:40	清水①	E-112						
			16:40-17:30			北澤①	D-107				
			12:10-12:30							室賀	-
	24日	木	16:40-17:20							大西	-
			9:00- 9:30							宮崎②	E-323
	28日	月	12:10-12:40							北原	E-204
			12:15-12:45							伊豆永②	-
14:50-15:30									山崎	E-112	
29日	火	12:15-12:45					丸田①	E-208			
30日	水	12:15-12:45			安田①	E-211					
		12:15-12:45							藤田	-	
12月	2日	金	14:50-15:10							古川	-
			14:50-16:20	藤井①	E-205						
			16:30-17:30	加河①	E-208						
	5日	月	16:30-17:30					大石	E-112		
			12:10-12:40							池下①	-
	7日	水	12:10-12:50			左近	-				
			12:20-12:40							瀧本	-
			12:15-12:45			鷺崎①	E-211				
	9日	金	12:10-12:40					岸野①	-		
			12:10-12:50			堀井	E-211				
	12日	月	16:30-								
			13:00-14:30	藤井②	E-205					大坪	E-203
	13日	火	12:10-12:55	篠崎①	E-617						
			15:00-15:45						小津①	E-201	
	14日	水	12:10-12:50	清水②	大講Ⅱ						
			12:20-12:50			與倉①	E-211				
	15日	木	16:40-17:40	前田①	A-117						
			12:10-12:55							小室	E-208
	16日	金	12:15-12:45			鷺崎②	E-211				
			16:40-17:20	中石②	E-617						
			12:15-12:45							村尾	-
	19日	月	16:40-17:10					潮崎	E-208		
			12:10-12:40							浦川①	E-208
	20日	火	12:10-12:55	篠崎②	E-617						
14:50-15:40			清水③	E-112							
14:50-16:20							岸野②	E-204			
15:00-15:45							小津②	E-201			
16:40-17:40			水野	E-617							
21日	水	12:10-12:50			北澤②	E-208					
		12:15-12:45							三輪	E-211	
		16:40-17:40			安田②	E-211					
22日	木	12:15-12:45					丸田②	E-208			
		12:20-12:50			與倉②	E-211					
		13:30-14:30							内田	E-617	
		15:00-16:00	前田②	A-117							
		16:40-17:10							池下②	-	
		16:40-17:20	中石③	E-617							
23日	金	16:40-17:40			鷺崎③	E-201					
		14:50-15:20							堀	-	
		14:50-16:20	藤井③	E-205							
		16:30-17:30	加河②	E-208							
1月	6日	金	12:10-12:40							浦川②	-
			16:40-17:30			北澤③	D-107				



## 5. 推奨科目一覧（経済・経営学科のみ）

経済・経営学科の学生は、各ゼミが推奨する「基本科目」（＝推奨基本科目。以下の表を参照）を受講していることやその成績が、ゼミの選抜の際に参考とされるケースもありますので、その点を考慮して応募してください。

経済・経営学科のゼミ担当教員別 推奨基本科目一覧

1-2年		3-4年			系			
学科の必修科目	推奨基本科目							
	経済史 I・II	経営学 I・II	会計学 I・II	情報処理I・ 計量経済学	国際 経済学 I・II	3-4年次演習 (ゼミ)担当教員	教員が担当している 専攻教育科目	
<b>【学部必修】</b> ・経済学入門 + <b>【学科必修】</b> ・マクロ経済学Ⅰ ・マクロ経済学Ⅱ ・ミクロ経済学Ⅰ ・ミクロ経済学Ⅱ ・政治経済学Ⅰ ・政治経済学Ⅱ + <b>【ゼミ推奨】</b> ・右表参照						加河 茂美 中石 知晃	経済統計 統計計量分析	経済分析
						八木 信一	地域政策	
						前田 真一郎	金融システム	
					◎	岩田 健治	国際金融	
					◎	清水 一史	世界経済	
					◎		貿易投資分析	
						篠崎 彰彦	情報経済	
						水野 敦子	開発経済	
							農業政策	
						藤井 秀道	現代日本経済論	産業分析
						與倉 豊	産業配置	
						堀井 伸浩	産業構造	
						安田 聡子	産業技術	
		◎※				鷲崎 俊太郎	日本経済史	
		◎				北澤 満	日本経済史	
		◎				左近 幸村	西洋経済史	企業分析
			◎			大坪 稔	経営政策	
			◎			岸野 早希	経営労務	
		◎			中本 龍市	経営管理		
		◎				日本経営論		
			◎		丸田 起大	管理会計		
			◎		大石 桂一	企業会計		
			◎		潮崎 智美	財務会計		
			◎		小津 稚加子	国際会計		

注) 以上は2022年度開始時点の情報に基づくが、実際の開講にあたっては、教員の海外研修・新規採用、その他の事情により、一部で追加や変更が生じる可能性がある。

※「経済史Ⅰ」のみ推奨

## 6. 教員別ゼミ募集要項

* 経済・経営学演習（経済分析系） .....	9
* 経済・経営学演習（産業分析系） .....	20
* 経済・経営学演習（企業分析系） .....	31
* 経営工学演習 .....	40

## 経済・経営学演習 (加河 茂美 ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	環境経済システム論	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	加河茂美	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	環境問題、資源問題、自然災害問題に関心があること		キーワード	パリ協定、環境規制、産業、企業、製品、都市、地球温暖化、循環型社会、環境問題、持続可能性、自然災害	
全体の教育目標	環境経済システムという大きな枠組みだけでなく、個別の環境規制策の有効性にも焦点を当て、現代の環境・資源問題の核心について学ぶ。現場見学、他大学ゼミとの合同セミナー、グループ学習などを通して、探究心、考察力を養う。		個別の学習目標		
<b>授業の概要</b>					
3-4年合同でゼミを行う。 3年生前期：教科書・参考書の輪読・発表（例：環境経済学をつかむ（栗山浩一・馬奈木俊介著）、環境評価入門（鷲田豊明著）、経済効果入門（地域活性化・企業立案・政策評価のツール）（小長谷一之・前川知史）など） 3年生後期：各自関心のある環境・資源・災害問題をテーマにして研究し、発表・質疑を通して問題の本質を理解し、問題解決に向けた政策提言を目指す。 4年生：各自関心のある環境・資源・災害問題をテーマにして研究し、発表・質疑を通して問題の本質を理解し、問題解決に向けた政策提言を目指す。					
<b>授業計画</b>					
3年生前期：教科書・参考書の輪読・発表・質疑、現地調査、 3年生後期・4年生：自分の問題意識のブラッシュアップ→研究テーマ案の発表→研究テーマの確定→研究→中間発表（9月合同セミナー）→研究→研究発表会・表彰（1月）					
<b>授業の進め方</b> ゼミ形式			<b>教科書及び参考図書</b> 環境経済学をつかむ（栗山浩一・馬奈木俊介著）、環境評価入門（鷲田豊明著）、経済効果入門（地域活性化・企業立案・政策評価のツール）（小長谷一之・前川知史）		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 平常点で評価する。			<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b>					
4月：花見&新ゼミ生歓迎会 5月～7月：バーベキュー、登山、海釣り、スポーツ大会、現場見学 7月：ゼミ旅行(2019年度は老岐) 8月：暑気払い 9月：合同ゼミ(2022年度は谷川ゼミ(名古屋大学)、橋本ゼミ(立命館大学)、重富ゼミ(長崎大学)と大分・九重で実施) 10月：合同バーベキュー(北澤ゼミ・瀧本ゼミ・藤井(秀)ゼミ) 11月：ゼミ同窓会、登山、海釣り、スポーツ大会など、12月：忘年会など。					
<b>応募に当たっての注意</b>					
当ゼミの説明会はマスク着用の上原則対面形式にします。オンラインでの参加希望の方は説明会前に私( <a href="mailto:kagawa@econ.kyushu-u.ac.jp">kagawa@econ.kyushu-u.ac.jp</a> )に連絡を頂ければ、オンライン(Zoom)による参加方法についてメールで個別にお知らせいたします。当ゼミ希望の学生は下記のゼミ説明会に少なくとも1回は参加してください。 第1回ゼミ説明会：12月2日(金)16:40-17:20 第2回ゼミ説明会：12月23日(金)16:40-17:20					

# 経済・経営学演習

( 中石 知晃 ゼミ )

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	環境と効率の経済分析	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	中石 知晃	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	環境問題、資源・エネルギー問題等の社会課題に対し、何らかの関心が有ること。		キーワード	環境経済、資源・エネルギー経済、生産性、消費者行動、持続可能な生産と消費、持続可能な開発目標 (SDGs)	
全体の教育目標	ゼミ活動全体で以下の4つの能力を養うことを目指します。 ①分析力：解決すべき任意課題を見つけ出す力 ②思考力：任意課題の解決方法を考える力 ③実行力：任意課題の解決に実際に取り組む力 ④伝達力：課題解決までのプロセスを他者に伝える力		個別の学習目標	任意の社会課題を、社会・環境・経済といった多角的な視点から捉える。  データ分析を通して、任意の社会課題を客観的・定量的に分析・評価する。	
<b>授業の概要</b>					
ゼミでは、「環境経済学」や「計量経済学」に関する基本的な知識を習得した後、上記4つの能力を養うことを念頭に、皆さんが任意に設定した卒論テーマ（※SDGsの17の目標のいずれかに関連するものが望ましい）についての調査・分析・報告を、通年で行ってまいります。実際の調査では、アンケート調査や公開データ等をベースに、エクセルや統計ソフトウェア等を用いた実証データ分析を行ってまいります。数学（計量経済学）やPCスキルに不安があっても全く問題ありません、適宜サポートしていきます。					
<b>授業計画</b>					
<b>3年生前期</b> ：教科書の輪読・発表・質疑等をグループで行ってまいります（※教科書は右下を予定）。					
<b>3年生後期～</b> ：任意の卒論テーマを設定してもらい、設定テーマに関する調査・分析・報告を行ってまいります。4年後期の1～2月頃には調査内容を卒業論文として取り纏め、最終報告会にて発表してもらいます。					
<b>授業の進め方</b>			<b>教科書及び参考図書</b>		
演習形式で行います。毎回の報告担当者がスライド（パワーポイント）形式で報告し、報告内容に対する質疑・討論等を全員で行ってまいります。ゼミは3年生、4年生、大学院生の合同で行います。			【教科書】エネルギー経済学（中央経済社・馬奈木俊介著）※適宜変更する可能性もあります。 【参考書】実証分析のための計量経済学（中央経済社・山本勲著）		
<b>試験・成績評価の方法等</b>			<b>その他</b>		
平素の成績で評価。			演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		

#### ゼミの企画、その他特記事項

ゼミ活動における活発な議論は、ゼミ生同士の信頼(友好)関係の上に成り立ちます。また、良い研究のアイデアは、研究室や自宅に引きこもっていても不思議と生まれず、散歩中や友人との会話の中で偶然生まれたりするものです。当ゼミでは、歓迎会、キャリアセミナー、スポーツ大会、現場見学、他大学との合同ゼミ、合同バーベキュー、忘年会、ゼミ卒業旅行、送別会等の様々なイベントを通して、ゼミ生同士は勿論、多種多様な社会人の方々とも積極的に関わり、個々人の知見を十分に広げてもらえればと思います。

#### 応募に当たっての注意

ミスマッチを避けるため、ゼミ説明会(※マスク着用の上、対面で実施)へは原則参加して下さい。やむを得ない理由で参加不可能な場合は、[tomoaki.nakaishi@gmail.com](mailto:tomoaki.nakaishi@gmail.com)にメール頂ければ個別に対応します。ゼミ説明会は、12月9日、16日、22日の3日間(※各日ともに16時40分～17時20分の間を予定)の日程で開催します。応募多数で選抜となる場合は、志望理由や特定の社会課題への興味関心の度合いを重視します。当ゼミは来年度よりスタートする新規のゼミとなりますので、オープンゼミ等は実施致しません。

## 経済・経営学演習（八木信一ゼミ）

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	人口減少社会における自治体地域政策と地方財政	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	八木 信一	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	とくになし		キーワード	持続可能な社会、自治体地域政策、地方財政、サードプレイス、まちの居場所	
全体の教育目標	広い意味で「地域」と主体的に関わることのできる人材を養成すること。		個別の学習目標	「地域」について「どうなるか」ではなく、「どうするのか」を具体的に提言できるようになること。	
<b>授業の概要</b> 人口減少と経済のグローバル化が進むなかで、日本においても「地方分権」、「地域主権」、そして近年では「地方創生」という名称のもとで、地域から持続可能な社会をつくるための諸改革が行われてきた。これらの成果については賛否両論あるが、地方自治体による地域政策（以下、自治体地域政策）のイノベーションと、それを促す分権型の地方財政制度の構築が大きなテーマとなっていることは見逃せない。そしてこのゼミでは、この大きなテーマに果敢に挑んでいく。そこではとくに、地方財政やそれに関わる自治体地域政策の実際と、これらの背後にある理論や思想との往復運動を絶えず試みることによって、演習参加者が自治体地域政策に関わる政策提言能力を養えることを目標としたい。					
<b>授業計画</b> 3年次前期は、地方財政と自治体地域政策に関わる文献を輪読する（令和5年度は地方財政の標準的なテキストに加えて、サードプレイスとも称されている、まちの居場所に関する文献も取り上げる）。また、ゼミ論文の執筆準備も並行して行う。後期は、ゼミ論文の執筆を行う。4年次前期は3年次生と合同で演習を行い、後期は3年次生のゼミ論文を支援する役割等を担ってもらう。					
<b>授業の進め方</b> 文献輪読は①報告、②内容理解のための質疑応答、③議論（受講者数が多い場合はグループに分けて行う）、④教員からのコメント、⑤次回授業までに振り返りレポート（800字程度、3年次前期のみ）の提出、という順番でおこなう。ゼミ論文については、事前に論文を送付してもらい、それをもとに担当教員等がコメントを行う。			<b>教科書及び参考図書</b> <b>【教科書（前期輪読予定分）】</b> ・沼尾波子ほか(2017)『地方財政を学ぶ』有斐閣。 ・藤原辰史(2020)『縁食論—孤食と共食のあいだ』シマ社。 ・齋藤保(2020)『コミュニティカフェ—まちの居場所のつくり方、続け方』学芸出版社。		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 規定の出席回数を前提にしたうえで、演習活動の発展に対する貢献を総合的に判断して評価する。			<b>その他</b> 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> <u>このゼミの最大の企画は、3年次におけるゼミ論文である。</u> ゼミ生自らが自治体地域政策に関わるテーマを設定し、3名程度のグループ単位で文献整理、統計分析、および現場調査に基づいてゼミ論文を作成する。また、この論文では政策課題の指摘だけでなく、それらの課題を現実的に解決するための政策提言も含んでもらう。そして、調査先の担当者等に論文内容に基づいた結果報告を行い、研究成果を社会へ還元することを最終目的とする。なお今年度は、3年次生が若者の観光を、また（他ゼミからの移籍等の）4年次生が地域運営組織と再生可能エネルギーをそれぞれテーマに掲げて、ゼミ論文に取り組んでいる。					
<b>応募に当たっての注意</b> <b>【ゼミ説明会・ゼミ見学について】</b> ① <b>ゼミ説明会はオンデマンドで行う。</b> Moodleにおける本演習募集用のコース（詳しくは経済学研究院HPのゼミナール関連情報で情報提供する）に登録したうえで、「いつでも、どこでも、何度でも」視聴できる機会					

を設ける。

- ②ゼミ見学は、オープンゼミ期間中のうち11月と12月のゼミ開催日において、オンライン参加のみ認める。参加方法や日程等、詳しくはMoodleにおける本演習募集用のコースで通知する。

#### 【選考について】

- ①Moodleにおける本演習募集用のコース登録を必須とする(ただし、ゼミ説明会の視聴、ならびにゼミ見学は任意とする)。そのうえで、ゼミ選考は申込書(および面談を行う場合もあり)に基づいて行う。
- ②申込書については記述された内容と分量で評価するが、「志望動機」と「これまでの大学(編入生の志望者については、卒業した高専や専門学校等でよい)生活で得たもの」は必ず含めること。
- ③面談(Zoomで実施)は、応募人数に関係なく、申込書の内容と分量だけでは意欲や能力等が十分に把握できない志望者、および新年度4年次生以上の志望者に対して行う。(なお、面談に応じなかった場合は不合格となるので、注意すること。)

#### 【その他】

- ①4年次生以上からの新規参加の場合についても、求める学習内容や学習水準は3年生と全く同じであり、ゼミ論文の執筆も義務づける。なお、4年次生以上については、ゼミ論文は卒業論文として位置づけているので、個人単位での執筆を認めている。
- ②このゼミの特徴は、「地域という現場」と「書くこと」へのこだわりである。地域という現場における様々な課題にしっかりと向き合いたい人、そしてその過程を通して自ら考えたことや学んだことについて書くことで表現したい人は、とくに歓迎したい。これらは一見して地味であるかもしれないが、グローバル社会で求められる姿勢や能力と根底的なところでは共通するものである。なお、担当教員が抱いている「地域という現場」と「書くこと」へのこだわりについては、八木信一・関耕平(2019)『地域から考える環境と経済—アクティブな環境経済学入門』有斐閣を読んでほしい。
- ③地方財政に関わる内容を含んでいるので、公務員志望者も一定の関心があると思われるが、このゼミを受講することによって公務員の一次試験において優位に働くことは全くない。他方で、二次試験以降(論述試験および面接試験)においては、これまでのゼミ卒業生たちの就職実績を鑑みると、ゼミを通じた「厚みのある学習経験」が大きくプラスに作用するようである。しかし、このゼミの最大のアドバンテージは「公務員として何がしたいのか(また何ができるのか)を模索できること」にある。

# 経済・経営学演習

( 前田真一郎 ゼミ )

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	グローバル化と金融	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	前田真一郎	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし。		キーワード	金融システム、グローバル化、フィンテック、金融危機、金融規制	
全体の教育目標	研究を通して、自ら考える力を伸ばし、自分の意見を論理的に述べるようになる。		個別の学習目標	グローバル化する経済のなかにおける金融の役割について自ら考察する。研究成果報告を通じたコミュニケーション能力の向上を図る。	
<b>授業の概要</b> 金融の理論を踏まえたうえで、現代において世界的に進んでいる事象（例えば、キャッシュレス決済やシェア経済、暗号資産取引など）をもとに、その広がりや金融との関係を幅広い視点で見えていく。演習では、各グループでの研究発表および全体討論を行う。そのうえで、研究成果をプレゼンテーション大会等で発表する（発表する大会等は、ゼミで話し合いのうえ決定する）。 演習は、3年生と4年生とは別に行うが、必要に応じて合同とすることもある。					
<b>授業計画</b> 第1回 ガイダンス：ゼミの進め方とゼミでの研究について話し合い、目的意識を共有する。 第2回以降 研究発表・討論：各グループでの研究発表および全体討論を行う。					
<b>授業の進め方</b> いくつかのグループに分かれてテーマを選び、研究発表・討論を行います。			<b>教科書及び参考図書</b> 【教科書】 必要に応じて指示します。 【参考書】 必要に応じて指示します。		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 平素の成績100%。 （4年時は、平素の成績30%、ゼミ論文70%。）			<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> ゼミ生の自主性を重視します。グループごとの発表は、質疑応答の時間を長く設けて、ゼミ生同士で議論し発展させていきます。日本とアメリカでの経験も踏まえ、グローバルな視点で研究を進められればと思っています。また親ぼくを深めるため、スポーツやゼミ合宿を行います。合宿等を通じてゼミ生全員が親しくなり、卒業後も長い付き合いができればよいと思っています。					
<b>応募に当たっての注意</b> ゼミ説明会(対面形式)を2回に分けて行います。ゼミ説明会は、自由参加とします(途中入出場可)。 また、来学が難しい方は、オンライン形式でのゼミ説明会に参加可能とします。オンライン形式(Zoom)でのアクセス方法等は、Moodle上の「経済・経営学演習(前田ゼミ説明会)」に記載してあります。 なお、説明会には、教員に加えゼミ生も参加し、個別に質疑応答の時間も設けます。いずれの説明会にも参加できない場合は、メール(maeda@econ.kyushu-u.ac.jp)のうえ、個別相談に応じます。					



# 経済・経営学演習

( 清水一史 ゼミ )

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	世界経済と東アジア	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	清水 一史	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	できれば経済の基礎科目や国際経済学を履修しておいてほしい。		キーワード	世界経済、東アジア、貿易、投資、経済統合、経済発展、工業化、ASEAN経済共同体 (AEC)、CPTPP、RCEP 米中貿易摩擦、米中対立、保護主義、COVID-19、ウクライナへのロシアの軍事侵攻	
全体の教育目標	世界経済と東アジア経済を総合的に理解する。現実の経済を理解出来るようになることを目指す。		個別の学習目標	世界と東アジアの貿易・投資、経済統合、東南アジア・NIES・中国の経済発展を理解する。	

## 授業の概要

世界経済や東アジア経済について、数冊のテキストを扱い皆で議論します。最近扱ったテキストとしては、石川幸一・馬田啓一・清水一史編『岐路に立つアジア経済』文眞堂、石川幸一・清水一史・助川成也編『ASEAN経済共同体の創設と日本』文眞堂、木村福成編『これからの東アジア』文眞堂、石川幸一・朽木昭文・清水一史編『現代ASEAN経済論』文眞堂、山澤逸平・馬田啓一・国際貿易投資研究会編『通商政策の潮流と日本』勁草書房、末廣昭『キャッチアップ型工業化論』名古屋大出版会などがあります。後期には4年生の卒業ゼミ論文報告や3年生の自由研究報告等を行います。ゼミは3・4年合同で行います。また院生も助言してくれます。

## 授業計画

第1回はガイダンスで、ゼミの進め方やゼミでの研究について解説します。またテキストを選定し今後の計画を決定します。以降については、第1回の際に参加学生と相談の上、決定します

## 授業の進め方

テキストの報告者を毎回数人割り当てて、報告者は、報告レジュメを作成し、論点を提示します。またテーマに即して資料を添付します。その後、報告者の論点並びに各自の論点について、皆で議論します。

## 教科書及び参考図書

石川幸一・清水一史・助川成也編『RCEPと東アジア』文眞堂、石川幸一・馬田啓一・清水一史編『岐路に立つアジア経済』文眞堂、石川幸一・清水一史・助川成也編『ASEAN経済共同体の創設と日本』文眞堂、清水一史『ASEAN域内経済協力の政治経済学』ミネルヴァ書房等。

## 試験・成績評価の方法等

平素の成績で評価します。

## その他

演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。

## ゼミの企画、その他特記事項

\*説明会は、2022年11月29日(火)、12月14日(水)、12月20日(火)の予定です。オープンゼミは、2022年12月20日(火)15時55分～16:40分に対面開催の予定です(E-112教室)。出入り自由です。オープンゼミの前には、ゼミ説明会を対面(予定)で行います(連続での参加も薦めます)。実際に見てみると色々な様子が分かるので、対面での説明会とオープンゼミの参加を薦めます。先輩も、親身に相談に乗ってくれます。ゼミ説明会の案内やURL等は、経済学部HPの「ゼミナール関連情報」、Moodle(2023年度経済・経営学演習 清水 一史)、清水ゼミ Instagram (shimizu\_zemi.asean) 等を見て下さい。

- \*ゼミでの報告と対話、ゼミの行事等を通して、将来に向けても役立つ事をしっかり学べるゼミと思います。
- \*勉強や就職に関しても諸先輩や院生が支援してくれます。
- \*大学院への進学を希望する人も是非志望して下さい。
- \*ゼミの行事としては、他大学との合同ゼミ、工場見学、バーベキュー大会、同窓会等を開催しています
- \*他大学との合同ゼミでは合同ゼミ合宿を行います。2022年度は「現代世界経済の諸問題」をテーマとして、「保護主義—米中対立とコロナショック—」、「CPTPP の意義と拡大」、「メガ FTA と ASEAN—RCEP を中心に—」、「ASEAN の域内格差」、「日本におけるベーシック・インカムの実現可能性に関する考察」等の合同セミナーを行いました。
- \*他大学の先生、外務省の方や JICA (国際協力機構) 等の方をお呼びしての講演等も行います。
- \*卒業生をも含めて、同窓生のつながりも重視し、同窓会も定期的に開催しています。

#### 応募に当たっての注意

- \*ゼミ説明会にできるだけ参加しておいて下さい(もし選抜が必要になった場合についても解説します)。
- \*ゼミ生が清水ゼミ Instagram を開いていますので、自由にご覧下さい([shimizu\\_zemi.asean](https://www.instagram.com/shimizu_zemi.asean))。
- \*ゼミ選抜基準では、志望理由と動機・やる気を重視します。

# 経済・経営学演習

( 篠崎彰彦 ゼミ )

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	情報化とグローバル化の経済学	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	篠崎彰彦	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	誠実な意欲と熱意		キーワード	情報技術、グローバル化、経済発展	
全体の教育目標	未知の問題に直面した際、大学で経済学を学んだ者にふさわしい思考と判断ができるようになる!		個別の学習目標	情報技術革新の経済効果を念頭に、実態把握に必要な情報・資料収集法、先行研究の整理法、基本的統計処理方法などをブレン・ストーミング型ディスカッションで身につける。	
<b>授業の概要</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミでは、「情報化」が企業、産業、経済にどのような影響を与えているか、現実の動向を捉えながらグローバルな視点で理解を深め、思考力と分析力を高めます。</li> <li>・まず、情報の収集方法と整理の仕方、実態の把握と経済学的な理解の方法をブレン・ストーミング型のディスカッション(ディベート型ではありません)で身につけていきます。その上で、レポート・論文の作成方法、事実の統計的な捕捉とデータ処理の方法などを学んでいきます。</li> <li>・原則として年次別に毎週4-5限目連続で進めますが、随時3-4年生の合同ゼミを行い、交流を深めます。</li> </ul>					
<b>授業計画</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年次は、情報や文献資料の収集方法、基本的な統計処理法などを身につけ、情報経済、企業経済、経済成長論などの基本概念と情報化やグローバル経済の現状について、ゼミ生全員が学識を共有できる演習を重視します。この過程で複数の論文、入門書、専門書、報告書の輪読を行う予定です(日本語文献と英語文献)。</li> <li>・4年次は、ゼミ論集の完成を目標に、各自でテーマを設定し、分析、報告、討論、執筆の作業を主体的に進めます。</li> <li>・演習を通じて根拠に依拠した明快な説明力と振る舞い力(課題設定力・資料作成力・即応力・対話力)を身につけます。</li> </ul>					
<b>授業の進め方</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年次では、共通のトピックスについて、各自がレジュメを作成し、ゼミ生全員で多様な観点からディスカッションしていきます。言語は日本語です。</li> <li>・基本文献や資料に加えて、最新の経済問題も積極的に取り上げ、現実の動きから本質へと理解を深めます。</li> <li>・エクセルを使った初歩から学ぶデータ処理方法の実習も一部行う予定です。</li> <li>・最終的には、全体テーマの中で各自が興味と関心を深めた対象の調査・研究に取り組み、4年次でゼミ論(卒業研究)を完成させ、発表します。</li> </ul>			<b>教科書及び参考図書</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜指定します。日本語、英語の文献や資料を用います。</li> <li>・昨年度は『情報通信白書』、『情報技術革新の経済効果』、『初歩からの計量経済学』、『The Impact of Mobile Phones on Poverty and Inequality in Developing Countries』などを取り上げました。</li> </ul>		
<b>試験・成績評価の方法等</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価は、①事前準備の取り組み姿勢、②報告者としての発表姿勢、③ディスカッションへの参加姿勢など平素の貢献度合いを全面的に考慮します。</li> <li>・そのため、演習では日本語による対面での対話力と即応力が求められます。</li> </ul>			<b>その他</b> <p>演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。</p>		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> (コロナウィルス感染症の状況次第で変わりますが、平常の場合は下記のとおりです。) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミの運営は、年次ごとの個性と自主性を尊重します。前後の年次のゼミ生との交流、フィールドワーク、自主ゼミ(サブゼミ)、懇談会(学期の節目の宴会)、合宿など、ゼミ生による主体的な活動を奨励しています。</li> <li>・大学入学後、少しダラけた自分を反省しつつ、これから少しは勉学面を充実させて変化したい! と思っている学生にもってこいのゼミです(今の延長線上で成長しなくてもいい、「変化」することが大切、それが「発展」につながります)。</li> </ul>					
<b>応募に当たっての注意</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習参加希望者は、募集期間中(1月5日~12日)に個別に面談の機会を設けて参加希望理由などを伺います(研究室[EE-513]もしくはZoom)。正確な日時や方法はゼミナール関連情報の掲示板やMoodleで別途アナウンスします。</li> <li>・オープンゼミ(予定)は期間中随時行います。自由参加ですので、ゼミナール関連情報の掲示板を参照の上、気軽に参加して下さい。</li> </ul>					

# 経済・経営学演習

( 水野敦子 ゼミ )

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	途上国経済の実態と課題	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	水野敦子	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	開発経済に関心を有すること		キーワード	開発経済、農村開発、開発政策、格差・貧困、産業化、労働力移動	
全体の教育目標	開発経済の知識、理解を深めるとともに、グループ学習や議論、報告を通じて具体的課題の考察力、ディベート力、発信力の向上を目指す。		個別の学習目標	途上国の経済開発に関する基礎的理論を総括的に学ぶとともに、開発途上国の具体的開発課題について、自ら研究課題を設定し考察を深める。	
<b>授業の概要</b> *3年生では、まず開発経済の基本的な理論や知識の習得を目指し、テキストを精読します。そのうえで、参加者の関心に応じて、開発途上国が直面している開発課題について研究課題を設定し、グループで研究を行います。 *4年生は、開発経済に関する学術論文の輪読とともに、個別研究について順に報告し、議論を深めます。 *研究成果は、3年生はグループ研究レポートに、4年生はゼミ論文にまとめます。 *3、4年生合同を基本としますが、適宜別に行うこともあります。					
<b>授業計画</b> 3年生：（1～10回）開発経済に関する基礎的文献の輪読。（11～20回）グループ研究、学術論文の輪読。（20～30回）研究報告、研究レポートの作成。 4年生：（前期）学術論文の輪読、研究課題の設定。（後期）資料の収集とその分析、ゼミ論文の作成。					
<b>授業の進め方</b> テキスト輪読、グループ・個別研究は、報告者を順番で割り当てます。学生諸君の発表、討論が中心。また、適宜、学外での活動を実施します。			<b>教科書及び参考図書</b> 【教科書】適宜指定 【参考書】適宜指定		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 輪読の報告20%、ゼミ議論への貢献20%、グループおよび個人研究30%、研究レポート、ゼミ論30%			<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> グループ研究の完成、ゼミ論の作成は単位取得の必須条件です。ゼミでの能動的な学びによって、授業では身に着けることができない能力を向上させることができます。その他のゼミ活動においても、学生の主体的な企画を歓迎します。2020～22年度は、コロナ禍などのために実施できませんでしたが、例年9月頃にゼミ合宿を行います。12月には、インナーゼミ(堀井・鷺崎・北澤ゼミと共催)に参加します。 *2023年度は、担当教員がサバティカル研修のため、対面実施できない場合は、オンラインや日程振替を行います。					
<b>応募に当たっての注意</b> 応募する人は、ゼミ説明会兼オープンゼミに必ず出席してください。やむを得ず、出席できない場合は、応募前に必ずメールにて連絡してください。申込書には、志望動機、希望進路を記載してください。応募者には、簡単な面談を行います。成績、志望理由、および面談で総合的に判断して選抜を行います。					

## 経済・経営学演習

( 藤井 秀道 ゼミ )

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	日本経済分析とSDGs	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	藤井 秀道	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	自ら能動的に研究課題や分析手法を探し出し、積極的な姿勢で演習に参加する学生		キーワード	日本経済分析、ESG経営、ウェルビーイング、人的資本、幸福度 持続可能な開発目標(SDGs)	
全体の教育目標	経済学的な視点から物事を批判的に考察し、代替案・改善案を提案できる能力を身につける。		個別の学習目標	1. 課題設定能力の育成 2. 情報収集能力の育成 3. 質問する能力の育成 4. プレゼンテーション能力の育成	
<b>授業の概要</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>ゼミでは「日本経済」、「ESG経営」及び「SDGs」をキーワードとした調査テーマについて、理解を深めていきます。特に企業の財務データや環境・社会・ガバナンスに関連したデータセットを活用し、企業の競争力を高める上での課題や具体的な取り組みについて、調査・分析を行います。</li> <li>演習を通じて卒業研究テーマを設定し、研究目的及び研究仮説を構築します。研究仮説の検証を進めるために、様々なデータ(<a href="#">日経NEEDS</a>、<a href="#">東洋経済CSR企業総覧</a>、<a href="#">World Development Indicators</a>)を利用します。データの加工・分析を行う上で必要となるPCスキルの向上もゼミの中でサポートします。</li> <li>ゼミは3年生、4年生、大学院生が合同で行います。</li> </ul>					
<b>授業計画</b>					
3年生：7月に北九州市で開催されるエコテクノで企業データ分析の結果についてポスター報告を行う。 その後、卒業研究のテーマを設定し、データの収集や分析、論文の執筆を進める。					
4年生：先行研究調査・データ収集・分析の実施・考察を行い、2月に実施される最終報告会で報告を行う					
<b>授業の進め方</b>			<b>教科書及び参考図書</b>		
演習形式で行います。受講生による調査内容の報告及び質疑・討論を中心に進めていきます。			【教科書】 適宜指定します。 【参考書】 適宜指定します。		
<b>試験・成績評価の方法等</b>			<b>その他</b>		
平素の成績で評価します。			演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>歓迎会、エコテクノへのバスツアー、忘年会、送別会、他ゼミとの合同BBQ等を企画しています。</li> <li>学生の留学に対しては柔軟に対応します(留学中にメール、LINE、Zoomによる遠隔指導を行います)。</li> <li>4年生はゼミ論文を作成し、最終報告会(2月上旬)で報告してもらいます。</li> </ul>					
<b>応募に当たっての注意</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>ゼミ説明会への参加は必須です。⇒履修している授業との重複などでやむを得ず参加できない場合は<a href="mailto:hidemichifujii@econ.kyushu-u.ac.jp">hidemichifujii@econ.kyushu-u.ac.jp</a>にその旨、連絡してください。個別に対応します。</li> <li>応募多数で選抜となった場合には①GPAの水準、②志望理由及び調査テーマへの興味・関心の度合いを重視します。特に、志願者のこれまでの活動・取り組み実績を重視して評価を行います。</li> <li>オープンゼミは実施いたしません。</li> </ul>					

## 経済・経営学演習 ( 與倉 豊 ゼミ )

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	経済地理学	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	與倉 豊	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	地域経済や経済地理的現象に高い関心がある者を歓迎する。		キーワード	地方創生, イノベーション, 都市, 再開発, 産業集積	
全体の教育目標	経済地理学関連の学術論文の精読, レジюме作成, 報告, ディスカッションを通じて, 現代の地域経済に関する実態の理解を深める. このゼミでは卒業論文の提出を必須としています。		個別の学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献研究により, 独自の研究テーマを探索する.</li> <li>・基礎的な統計資料の収集・分析により対象地域・産業の概要を把握する.</li> <li>・実態調査, 論文作成</li> </ul>	
<b>授業の概要</b>					
<p>◇ゼミでは地域経済や産業地域をめぐる現代的テーマ(題材)に関して, 「経済地理学」を土台とした研究を遂行する. 経済地理学は経済活動の地理的な側面に光を当てる学術分野であり, 対象地域も対象産業も多様である. 担当教員は主に製造業の研究を専門としているが, ゼミで取り扱う産業は農業から商業, 観光業まで幅広く, また対象地域も農山村から大都市まで含まれる.</p> <p>◇ゼミは3・4年生合同で行う. 3年生は事前に指定する経済地理学関連の学術論文に関して, レジюмеを作成し, 報告する必要がある. また基礎的な統計資料の収集・分析など, 地域分析の手法について指導する. なお, 年度末のゼミ最終回を締め切りとして, 地域分析レポートを提出する必要がある.</p> <p>◇4年生は各自で設定する研究テーマに関連した文献報告を行う. 対象地域・産業の調査を行い, 研究の進捗状況について報告する. 以上の成果として, 各自がゼミ論文を提出し, 年度末に発表会を実施する.</p>					
<b>授業計画</b>					
<p>第1回 ガイダンス: ゼミの進め方, 文献探索の方法, レジюмеの作り方について</p> <p>第2回以降 初回ガイダンスの指示に従い, 文献報告, 研究の進捗状況の報告を行う.</p> <p>ゼミ最終回 4年生によるゼミ論文の発表会</p>					
<b>授業の進め方</b>			<b>教科書及び参考図書</b>		
<p>・演習形式で行う. 文献報告においては, 報告者以外にも事前に取り上げる論文を読み, 論文に関する疑問, コメントなどを Moodle にて提出します. 参加者全員が論文を読んでくることを前提としてゼミを進めます.</p>			<p>2023年度は2冊の教科書を用いる予定である.</p> <p>①半澤誠司ほか編(2015)『地域分析ハンドブック』ナカニシヤ出版.</p> <p>②松原宏編(2022)『新経済地理学概論』原書房.</p>		
<b>試験・成績評価の方法等</b>			<b>その他</b>		
ゼミでの報告, ディスカッションへの参加, 地域分析レポート, ゼミ論文をもとに成績評価を行う。			演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b>					
ゼミ生はオリジナルな研究の成果として, 4年次にゼミ論文(卒業論文)を執筆する. ゼミ論文は「與倉ゼミ卒業論文集」として製本をし, 関係各所に配布している. 過去の卒業論文の題目は下記の HP を参照してください. <a href="https://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~yokura/">https://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~yokura/</a>					
<b>応募に当たっての注意</b>					
<p>◇ゼミ説明会は2回(ハイブリッド形式)開催しますので, どちらかに出席してください. やむを得ない理由により出席できない場合には, 担当教員にメールにてお知らせください. 個別に対応します.</p> <p>◇申込書には, 現段階で興味関心ある事柄や, ゼミで勉強したい内容, 研究テーマなどを記載してください. 選抜が必要な際は成績とともに申込書の記載内容も参考にします.</p> <p>◇オープンゼミは12月22日に行います(参加, 入退室ともに自由). 教室の収容人数の関係上, ゼミ生以外は Zoom 参加とします. URL はゼミ説明会と同様に別途指示します.</p>					

# 経済・経営学演習

( 堀井 伸浩 ゼミ )

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	中国産業の実証分析	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	堀井伸浩	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし。		キーワード	中国経済、日中産業比較、実証分析、フィールドワーク	
全体の教育目標	論理実証主義に基づいた研究分析手法を習得。また中国人留学生とのグループ研究を通じ、生きた中国理解を促す。		個別の学習目標	中国の産業分析を通じて、中国の経済発展の動態に関する知見を得る。	
<b>授業の概要</b>					
<p>本講義の教育目標は「仮説に沿ってデータを収集・加工し、分析結果をプレゼンテーションする能力」を学生諸君に身に付けてもらうことである。ゼミを通じ、仮説を導き、それをデータで裏付ける科学的な論理実証主義手法を習得できるように、授業計画を考案している。こうした分析能力は研究者を目指す学生諸君はもとより、社会に出て実務に携わる諸君にも有用なスキルとなると確信している。また躍動する中国経済についての実践的な知識の習得も目指す。</p> <p>ゼミ活動は学部生と大学院生（研究生）とがチームを組んで進めるグループ研究を軸に進める。大学院生の多くは中国人留学生であり、そのためゼミは日中の学生による国際的な知的共同作業の場となる。R4年度は「観光の経済効果」「ICTプラットフォーム」「交通インフラ整備と製造業の国内移転効果」「環境産業」「新型コロナ流行と株価」「化粧品産業」などのテーマについてグループ研究を行っている。新たにゼミに入る新3年生は上記の現在動いているグループのテーマにとらわれることなく、自らの希望に沿って新たなグループを立ち上げることを奨励している。なおゼミは3-4年（および大学院生）合同で行う。</p>					
<b>授業計画</b>					
3年次：					
4月～7月 オリエンテーション、中国経済・産業分析・グループ研究の設定テーマに関連する文献の輪読					
8月 ゼミ合宿に向け、グループごとにリサーチワークに関するコンサルテーション ゼミ研修旅行（行き先中国、日数7日程度。グループ研究のフィールドワークとの位置づけ） →3年前まで実施。来年度も実施は難しそう．．．					
11月 ゼミ合宿（国内2泊3日）					
12月 北澤・鷺崎・水野ゼミとの研究発表会					
4年次：					
4月～7月 学生諸君と相談して決める					
8月 卒業（ゼミ）論文作成に向けたコンサルテーション					
9月 ゼミ研修旅行（詳細は3年次の説明を参照）					
11月 ゼミ合宿にて卒業（ゼミ）論文構想発表					
11月以降、随時卒業（ゼミ）論文指導					
12月 神戸大学梶谷ゼミとディベート討論会					
<b>授業の進め方</b>			<b>教科書及び参考図書</b>		
学生諸君の発表、討論が中心。課外活動（ゼミの準備やゼミ合宿）もあり、原則出席が求められる。			適宜、別途指定する。		
<b>試験・成績評価の方法等</b>			<b>その他</b>		
平常点を50%、研究発表や卒業（ゼミ）論文を50%で評価。			演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。		

### ゼミの企画、その他特記事項

- 1) ゼミは週1回の本ゼミと不定期開催(おおむね月に1回)のグループごとにリサーチに必要な文献を輪読するサブゼミで進められる。アウトプットは、ゼミ合宿時のパワーポイント、卒業時に作成するゼミ論文となる(いずれもグループワークによる共同作成)。
- 2) 毎年夏に中国の研修旅行を任意参加で挙げてきた。H21年度は大連・瀋陽・上海、H22年度は山西省・内蒙古、H23年度は湖北省・河南省・北京、H24年度は山西省・江蘇省(南京、蘇州)・上海を巡った。しかし日中関係の悪化から、H25年度は海南省のみとなり、日数も大幅に縮減せざるを得ない状況となり、H26年度とH27年度は休止となった。研修旅行は企業調査など得難い学習機会であるとともに、ゼミ生同士が絆を強める良い機会となっているので極力実施したいと考えており、再びH28年度は天津・北京、H29年度は広東省(深セン)、H30年度は上海、R1年度は天津で再開が可能となった。しかしR2年度およびR3年度は新型コロナで日中とも入国制限が講じられたため、実施が不可能となった。新型コロナの影響が消失し、日中間の入国制限が撤廃された後は、日中関係が極度に緊張化していないのが前提となるが、再び中国での研修旅行を再開したい。
- 3) ゼミ合宿は国内で2泊3日で行うのが通例である。リサーチ成果の報告を行う真面目な合宿であるが、ランドゴルフをやったり、アフターゼミも色々思い出深いものがあります。
- 4) 北澤・鷺崎・水野ゼミと共同研究発表会を平成21年度より実施しており、R4年度も12月に実施予定。また神戸大学の梶谷ゼミとディベート形式のインゼミを実施している。

### 応募に当たっての注意

ゼミ選抜基準は志望理由重視です。他の条件は何もありません。このゼミに対して何を期待するか、自分は何を貢献できるか(売り込めるか)を記述して下さい。

ゼミ説明会は入ゼミ後のミスマッチなどを未然に防ぐためにも極力参加してもらいたと思いますが、ゼミ説明会に参加していないことが選考に影響を及ぼすことはありません。ゼミ説明会に参加できなかった学生さんでゼミのことについて不明な点、聞きたい質問などがあれば遠慮なくメールを下さい。

オープンゼミは実施しません。



# 経済・経営学演習

# (安田聡子ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	イノベーション・マネジメント	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	安田聡子	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし		キーワード	新技術の誕生・普及、知識の商業化、イノベーションのエコシステム	
全体の教育目標	新技術誕生・普及により経済効果が発生し、社会に影響が及ぶまでの長い過程を、複数の局面から観察・分析する。文献精読、報告、討論の繰返しで分析能力とプレゼン力を高める。		個別の学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 良質な最新情報に毎日触れて情報感度を高める。</li> <li>・ 文献精読により調査・分析の核となる理論を習得する。</li> <li>・ プレゼン・討論・レポート作成により分析結果を説得的に述べる術を磨く</li> </ul>	
<b>授業の概要</b> <p>新技術が誕生して財（製品・サービス）となり、それが普及して経済価値を生み出し、企業経営や人間生活にまで影響を及ぼす長い過程を「イノベーション・プロセス」と呼びます。このプロセスを「知識創造」、「価値創造」、「価値獲得」という3局面に分け、各局面固有の問題について調査・分析を加えるのがイノベーション研究です。有名な「オープン・イノベーション」論は知識創造局面におけるマネジメントを論じたものです。ビジネス・パーソンに人気の「破壊的イノベーション」は価値創造と獲得に関する議論です。担当教員自身は「知識創造—価値創造」の境目に注目し、モビリティ（機械や人材の移動）が技術の誕生と普及にどのような影響を与えているのかを調査していますが、多様なバックグラウンドを持つ研究者との交流を通して、イノベーション・プロセス全体を念頭に置きながら研究を進めています。</p> <p>こうした研究をしているので、最新技術やヒット商品には常に敏感であろうと心がけていますが、昭和世代のため世の中についていくのは大変です。インスタの登録はしたものの、フォローしているのはNHKだけ、ABEMAをみても何が面白いのかさっぱり分かりません。スマートウォッチを買ってはみたものの、機能が多すぎて使いこなせません。このように「イノベティブでありたい」と奮闘し苦勞している教員を助けてくれる先端的な学生、対照的に古いモノが好きな学生、なんでも普通が良いまったりした学生、海外志向の学生、地元大好き学生など、多様な学生を集めて、互いの価値観を理解し許容しあう「居心地の良い<b>学びの共同体</b>」を創りたいと思っています。</p> <p>ゼミは3・4年合同で行います。事前に指定する文献を読み、その内容を報告した後に討論し、さらにそこで学んだことを応用しながら<b>現代的な事象を自分の言葉で解説する</b>、ということを繰り返します。評価は「毎回の準備状況」、「ゼミへの知的貢献」、「期末レポート（あるいは卒業論文）」という3つの評価軸に基づきます。「期末レポート（あるいは卒業論文）」については、分析や記述が充実していることはもちろん重要ですが、「意義ある（そして自分に合った）テーマを発見できるか」を最も重視します。</p>					
<b>授業計画</b> 第1回目 ガイダンス 第2回目以降 初回のガイダンスの指示に従い、文献輪読、プレゼン、討論を進めていく ゼミ最終回 期末レポート（あるいは卒業論文）の報告会					
<b>授業の進め方</b> 演習形式で行います。文献報告の際には、報告者以外の学生にも簡単な概要を提出してもらいます。その後の討論では、活発な発言、鋭い質問、風変りなコメントなどの <b>Class Participation</b> を求めます。			<b>教科書及び参考図書</b> <b>【教科書】</b> <b>【参考書】</b> 授業中に指示します。		

<b>試験・成績評価の方法等</b> 毎回の準備状況：40%、ゼミへの知的貢献：20%、期末レポート（あるいは卒業論文）：40%	<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> <p>みなさんは2期生になります。歴史の浅いゼミですので、ゼミ生の希望や個人特性を考慮しながらフレキシブルにゼミを運営したいと思います。ただし、articulation(明瞭に発言すること)の訓練は繰り返し行います。何かを明瞭に述べるためには、発言を歓迎する雰囲気や聞き手のことを理解するチャンスも必要です。そうした雰囲気づくりのためにも、コンパやゼミ旅行などを積極的に行いたいと思います。</p> <p>前任校でのゼミ生や九大の1期生は、学外のビジネスプラン・コンテストに参加してきました。そうしたイベントへの参加を促し、積極的に指導を行っていきたいと思います。</p>	
<b>応募に当たっての注意</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゼミ説明会は極力参加してください。お互いに初対面ですので、入ゼミ後のミスマッチを防ぐという意味でも説明会に参加し、希望を述べたり質問をしたりすることが重要です。</li> <li>・ 応募多数で選抜となった場合は、所定のテーマに関するエッセイ(2000字程度)をもとに選抜します。<u>文章の書き方が適切な応募者</u>を対象として、「なるべく多様な学生が混ざるように」選考します。</li> <li>・ 優秀な応募者が多ければ、普通の応募者が相対的に有利になります。生真面目な応募者が多ければ、ユニークな応募者が相対的に有利になります。逆もまた然りです。</li> </ul>	

## 経済・経営学演習 (鷲崎俊太郎ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	日本経済史と空間経済学	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	鷲崎 俊太郎	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	経済史Iの履修が望ましい		キーワード	日本経済史・都市経済・長期経済分析	
全体の教育目標	現代都市経済の諸問題を、歴史的経緯と照らし合わせながら、分析できる能力を身につける		個別の学習目標	ライブラリー、ICT、ロジカル・シンキング、プレゼンテーション、論文などリテラシーの養成	
<b>授業の概要</b> ・徳川期～近代の日本経済について、現代の諸問題と照合しながら分析できる能力を身につけます。とくに、 <b>都市</b> や <b>空間</b> 、 <b>土地不動産</b> における <b>社会経済メカニズムの発生源や問題の推移</b> などを、長期時系列的な視野を持って分析、検討していきたいと思っています。 ・通常のゼミは、①：テキストの輪読、②：半季に1度は校外に出かけてフィールドワーク (FW) ，③：①～②の成果をもとに各回のテーマに沿ったプレゼンテーション (PR) を行います。					
<b>授業計画</b> <b>3年次 【2022年度の実績】</b> 4月 輪読 5月 輪読、インゼミテーマ報告 6月 輪読、インゼミ前期中間報告、唐津日帰りフィールドワーク (唐津城・旧高取邸など見学) 7月 インゼミ前期最終報告 8月 北九州日帰りフィールドワーク (旧八幡製鉄東田第一高炉・門司港レトロ地区など見学) 9月 長崎合宿と鹿児島合宿を隔年で開催 (今回は、鹿児島の仙巖園・黎明館などを見学) 10月 輪読、インターゼミ向けリハーサル、 11月 福岡市博物館日帰りフィールドワーク (「独眼竜伊達政宗展」見学)、六大学インターゼミ (関西大学西村ゼミ、福岡女子大学櫻木ゼミ、西南学院大学小野寺ゼミ、公立鳥取環境大学谷口ゼミ、流通経済大学・同志社大学長澤ゼミ)、東京合宿 12月 4ゼミ合同発表会 (堀井・北澤・水野ゼミ) 1月 輪読、ゼミ論文制作、卒論テーマ発表  <b>4年次 【例年の実績 (オンライン・対面にかかわらず)】</b> 卒論制作：テーマ発表→資料・データ収集→第1回中間発表 (7-8月) →第2回中間発表 (11-12月) →最終発表 (1月) →提出					
<b>授業の進め方</b> ※演習方式を基本とします。 ・輪読・PR…報告者にレジュメの作成を、聴衆者に議論の推進を求めます。 ・FW…博物館・工場などを見学します。 ※2023年度につきましても、 <b>対面式でゼミを重視</b> しつつ、 <b>毎週オンライン設定を行う</b> ので、当日ちょっと体調が悪いという学生、帰省している学生、あるいはゼミ直前・直後に用事のある学生などには、遠隔式で参加できるよう配慮したいと思います。			<b>教科書及び参考図書</b> <b>【教科書：今年度使用したテキスト】</b> ・浜野潔ほか[2017]『日本経済史 1600-2015』慶應義塾大学出版会 ・佐藤望編[2020]『アカデミック・スキルズ』第3版、慶應義塾大学出版会 ・大出敦編[2020]『プレゼンテーション入門』、慶應義塾大学出版会  ※来年度は、ゼミの進捗状況に応じて決めます。		
<b>試験・成績評価の方法等</b> ・出席状況 (議論や校外学習への参加を含む、50%) ・PR・論文に対する評価 (50%)			<b>その他</b> 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。		

## ゼミの企画、その他特記事項

### 1. 「たかが4単位 されどゼミ」

「ガクチカ」、「コミュカ」を付けたかったら、いらっしやい。個性を重んじながら、めっちゃ付きます、付けさせます！その要素は、①輪読のディスカッション、②プレゼンテーションの仕方、③就活時のOBOGとのコンタクトなどにあります。

歴代ゼミ生数	合計	主演習	副演習 副専攻	男子	女子
2009-13年(1-5期)	48	37	11	30	18
2014-18年(6-10期)	59	47	12	39	20
2019年(11期)	10	10	—	8	2
2020年(12期)	9	7	2	7	2
2021年(13期)	1	0	1	0	1
2022年(14期)	9	8	—	9	0

### 2. 就活への対応には、ゼミ OBOG が学生に力を相当貸してくれます！

鷺崎ゼミ生の就活では、まず①志望する業界や企業・公務に勤務するゼミ OBOG に、コンタクトをとれる限り、とっていきます。鷺崎ゼミには、120人を超える OBOG が国内外で活躍しており、就職先の業界もバラエティーに富んでいます。(入ゼミパンフレットの「就職先」を参照。)②コンタクトをとったゼミ OBOG は、直接での対面はもちろん、Zoom や LINE で随時、相談・話し相手になってくれます。エントリーシートの書き方を学ぶ学生もいました。インターンや会社説明会では言えない、聞きづらい本音を会話し合っています。③その OBOG から、さらに社内外のお友だち・先輩・後輩を紹介してもらっています。ゼミ OBOG も、新卒時に同じような就活をしていたので、ほかのどんな就活生よりも親身になって、あなたの将来を考えてくれます。

### 3. ゼミは、将来の結婚相手が見つかる場でもあります！

結婚に関して真剣に考えている学生はまだそれほどいないでしょうが、不思議なことに鷺崎ゼミではゼミ同級生同士の結婚が、9年間で3組も誕生しています(公認ルートの情報のみ、風の噂で付き合っているゼミ生男女はもう少々)。学生時代から付き合っていたのかはともかく、学生時代にあれこれと意見をぶつけ合い、しょっちゅう会話を繰り返して、尊敬しつつ、お互いの短所も理解し合っているからこそ、生涯の伴侶を誓い合えるご縁があったのだと思われます。(新郎・新婦の披露宴での祝辞より。)

### 4. 就職前に歴史を学べるラストチャンス！ 暗記しない日本経済の推移を一緒に学ぼう！

志望する業界や企業の成り立ちを知っていますか？ 留学や海外出張へ行って、相手地域の社会経済や文化を学んでも、日本のそれを説明できますか？ そもそも、なぜいま自分がそこに存在するか、把握できていますか？ 知るは一時の恥、知らぬは一生の恥。共通テストの地歴・公民で世界史・地理選択だった方々、大歓迎！ 現代の経済・経営学を別の主演習で、過去の日本経済の変遷を副演習で学びたい方、ますます大歓迎！ たとえ歴史が苦手でも、必ずやそのアレルギーを解消させて、経済学を楽しくさせてみせます。

## 応募に当たっての注意

- ① ゼミの現役学生と教員が一丸となって、[入ゼミ用YouTube「鷺崎ゼミちゃんねる」](#)を作りました。「副演習履修の意義」や「就活におけるゼミの存在と重要性」、「フィールドワーク(校外学習)やインゼミ(他のゼミとの研究発表会)のおもしろさ」などなど、ゼミ生と教員が語っていますので、当ゼミ志望の有無に拘わらず、これからどこかゼミに入る皆さんに見てもらいたいです。(11月1日から、順次アップロード中！)

**Search on Google now!**

- ② **入ゼミ用パンフレット**: [ゼミナール関連情報サイト](#)へ、12月初旬までに掲載予定です。
- ③ **オープンゼミ**: 毎週木曜日 4~5 限 ※遠隔で参加可能です。
- ④ **入ゼミ説明会**: 対面とオンラインで、同時に実施します。現役ゼミ生との懇親を図り、質問・相談に対応しますので、お気軽にご参加下さい。参加希望者は、ぜひ事前に[「鷺崎ゼミちゃんねる」](#)を視聴して下さい。
- ⑤ 入ゼミ希望者には、「**演習参加申込書**」提出前に**現役ゼミ生 & 担当教員との面談**を強く推奨します(オンライン可)。アポイントは、[shuntaro@econ.kyushu-u.ac.jp](mailto:shuntaro@econ.kyushu-u.ac.jp)宛にメールを送信して下さい。(ゼミ説明会に参加できない場合も、上記アドレスまで連絡して下さい。個別に承ります。)

# 経済・経営学演習

# (北澤 満 ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	日本の経済社会について、長期の時間軸で考察する	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	北澤 満	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	推奨基本科目「経済史Ⅰ」を履修済であることが望ましい		キーワード	経済史、経営史、産業史、文献・情報検索、文章作成	
全体の教育目標	現代社会経済の諸問題について経緯を踏まえつつ、幅広い視点で分析する能力を養う。グループ・ワークなどの共同作業を通じ、社会性を涵養する。		個別の学習目標	情報・文献検索、レポート・論文等の作成、および各種プレゼンテーションなど、文系の大学生（大卒）として必要とされる技術、および正しい意味での教養を獲得する。	
<b>授業の概要</b> 近現代日本の社会経済に関して、諸産業・諸企業の盛衰、企業家、および背景となる文化・制度・慣習などに焦点を当てつつ、幅広く学習します。まずは初学者向けの平易な文献からはじめ、「個別の学習目標」に掲げた諸技術を習得しつつ、グループ・ワーク、個別の研究報告へと進んでいく予定です。 当ゼミの最大の特徴は「懐の深さ」です。「教育目標」に掲げた「経緯を踏まえた分析」にさえ留意してもらえれば、時期・対象のいずれについても、狭く限定することはありません。また、狭義の「経済史」、さらには「経済学」といった枠にとらわれず、政治・教育・文化（食生活・芸術・スポーツ・サブカルチャーなど）といった隣接分野に関しても、積極的に越境していきます。 通常のゼミは、テキストの輪読（テキストの内容について報告の後、全体で議論します）、個人・グループの報告（経済成長と公害の発生、食文化の変容などといったトピックに関して、または経営者・思想家など人物に関して、テーマを設定）が中心ですが、「文献検索」・「レポート作成」のような各種ワークショップや、下記のようなイベントを開催する場合があります（参加者の希望により、予定は随時変更してまいります）。なお、通常のゼミは3・4年生合同で行います。					
<b>授業計画</b> 第1回 ガイダンス。当年度のゼミ計画を立案します。 第2回以降 テキストの輪読や、各自の報告を中心に行います。ほかに、下記のような企画を予定していません（最終的な決定については、ゼミ生の意思を尊重します） 4～5月 文献検索ワークショップ 9月頃 他大学とのインゼミ 12月 インゼミ（堀井・鷺崎・水野ゼミと合同）  ※コロナ禍以前は、ゼミ旅行、工場見学なども実施していました。こうした行事を実施するか否かは、来年度の社会状況と、参加学生の意向によります。					
<b>授業の進め方</b> 基本的には、演習方式です。参加者には、楽しく議論するための準備が求められます。			<b>教科書及び参考図書</b> 【教科書】今年度は、武田晴人『事件から読みとく日本企業史』などを使用しました。次年度のテキストは、新3生とも相談のうえ、決定します。 【参考書】随時、指示します。		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 出席状況（30%）、報告内容・議論への参加（40%）、ゼミ論文・グループ論文の評価（30%）			<b>その他</b> 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できます。		

## ゼミの企画、その他特記事項

コロナ禍以前は、工場見学のようなアカデミックなイベントのほか、飲み会、鍋会などもゼミ生の希望に応じて行っていましたが、正規授業以外は、原則として希望者のみの参加です。また、学生の希望がなければ、そうしたイベントを無理強いすることはありません。総じて、コアとなる学習の部分を確保することは必須ですが、ゼミを今後の大学生活の中心とするか、それとも一部分とするかは、参加者の意思にお任せします。

## 応募に当たっての注意

- ・選考について、1次募集では、それほど成績を重視しません(推奨基本科目についても同様)。すべての面で、現時点での知識量(高校において、日本史履修をしたかどうかなど)も関係ありません。本の読み方、文章の書き方からテーマ設定まで、丁寧に指導します。自分を向上させていこうという気持ち、少しずつでも社会を変えていこうとする意欲があること、これが最大の参加条件です。受け入れに余裕がある場合、それほど厳しく選抜する予定はありません。
- ・二次募集においては、志望動機などにに基づき、かなり厳しく選抜します。また、一次募集で十分な受け入れがあった場合、二次募集そのものを取りやめる場合もあります。なので、迷う場合は、一次に応募することをおすすめします。
- ・「色々勉強したいという意欲はあるが、まだやりたいことが固まっていない、見えない」という皆さん、応募を歓迎します。当ゼミでの学習のなかで、それは見つけられるはずです。
- ・ゼミ説明会は3回行います(ただし、第2回は時間も短いので、第1回説明会の録画を事前視聴し、教員・ゼミ生との質疑応答のみ、という形式を採ります)。いずれの説明会もハイフレックス方式(対面+リアルタイムオンライン)とします。選考において、選抜が必要となった場合、説明会への出席者(対面、オンラインの別は問わない)を優遇します。
- ・ゼミ活動については、Facebook ページもご覧下さい。「九州大学 北澤ゼミ」で検索すればヒットします。Facebook アカウントがなくても閲覧できるよう、「公開」設定にしています。
- ・詳細なゼミ募集に関する情報は、moodle のゼミ募集ページで流します。  
<https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/course/view.php?id=33069>
- ・ゼミ募集期間におけるゼミについて、すべて公開します。事前に教員まで連絡のうえ、ご参加下さい。この点については、moodle で詳細を説明します。

# 経済・経営学演習

( 左近 幸村 ゼミ )

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	ロシア経済史	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	左近幸村	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし。		キーワード	工業化、ロシア帝国論、グローバルヒストリー	
全体の教育目標	経済史を研究するとはどういうことなのかを、理解する。世界史とロシア史の関連性を考える。		個別の学習目標	経済史の観点から、ロシア（ウクライナなど周辺国も含む）の歴史を理解する。	
<b>授業の概要</b> 前年度とはテーマを大きく変えるので、3年生と4年生は別々に授業を行う。 2022年2月末のロシアによるウクライナ侵攻以来、ロシアやウクライナの歴史に関する記事がメディアに多く登場するようになった。そこで本演習は、両国やその周辺国の近現代史を経済史の観点から眺め、最新の研究ではどのように論じられているかを、理解することを目的とする。読む文献によっては、経済史だけでなく、政治史や社会史の様相も濃くなる。2年間で出来ることは限られており、分かったことよりも分からないことが増えるかもしれないが、それこそが本演習の本当の狙いである。今般の戦争の原因や解決策を直接考察するものではないが、背景の理解に多少資することはあるだろう。					
<b>授業計画</b> 初年度の前期は、日本語でロシア史や経済史に関する文献を読み、基礎知識を身につける。 後期から、英語の専門書を読んでいく予定である。本当は英語にこだわるつもりはないが、ロシア経済史に関する適当な日本語文献は、今のところ見当たらない。 現時点で、文献の候補として考えているのは、以下の通りである。どの文献を読むかは、参加学生の知識や関心によって、決める予定。					
<b>授業の進め方</b> 輪読形式の予定。			<b>教科書及び参考図書</b> 【教科書】 上記を参照 【参考書】 上記を参照		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 平素の成績。			<b>その他</b> 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> 担当教員は下戸なので、コロナの状況に関わらず、飲み会を積極的に企画することはない。					

### 応募に当たっての注意

- 最初から専門的な知識を身に付けている必要はもちろんないが、分からないことは自分で積極的に調べる姿勢が必要。課題となった文献だけを読めばよいというものではない(ゼミとは、おしなべてそういうものだが)。
- 前述のようにテーマが全く違うので、オープンゼミは実施しない。
- ゼミ説明会への参加は必須ではない。メールでの相談や、アポを取った上で研究室に来るのも可。
- 申請書に記載してほしい情報:なぜこのゼミを希望するのか、分かりやすく書いてくれば良い。成績よりも志望理由を重視する。
- ロシア語を読める必要はない。



# 経済・経営学演習

( 教 員 名 大坪 稔 )

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	経営財務の基礎	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	大坪 稔	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	経営学 I・II		キーワード	資金調達、キャッシュフロー、株価	
全体の教育目標	経営財務を中心として、企業経営について幅広く学習します。		個別の学習目標	財務の側面から企業活動について理解・評価することができるようになること	
<b>授業の概要</b> 3・4年生合同でゼミを行う。「経営財務」とは資金の調達や運用など、企業経営のうち資金に関係する分野を対象とした学問である。たとえば、企業にはどのような資金調達の手段があるのか？(株式市場から調達するのか、あるいは銀行から借り入れるのか?) そして、調達した資金を複数ある投資案件のどれに投下するのか？(複数ある投資案件のなかからどの投資案を実行するのか?) といった問題について学習していきます。					
<b>授業計画</b> 第一回 ガイダンスと参加者の自己紹介 第二回 ゼミの実施					
<b>授業の進め方</b> あらかじめ報告者を決めておき、報告者にテキストの内容を報告してもらった後、他の参加者から質問をしてもらい、その質問内容について討議していく。			<b>教科書及び参考図書</b> 【教科書】 未定 【参考書】		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 平素の出席を前提とし、発言および課題提出で評価			<b>その他</b> 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に新歓合宿(1泊)、夏季休暇中にゼミ合宿(2泊)と、年2~3回の懇親会があります。 (HPを参照:<a href="http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~otsubo/">http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~otsubo/</a>)</li> <li>・テキスト報告と並行して、実際の企業の財務データを基に企業分析を行っていただきます。</li> <li>・3年の夏季休暇中に、日本CFA協会主催の「リサーチ・チャレンジ」に参加していただきます。これは、事前に決められた企業を対象とする企業評価・財務分析であり、英語でのレポート提出とプレゼンテーションが求められます。</li> <li>・4年の後半に就職内定先の企業・業界を対象とした論文を書いていただきます。</li> </ul>					
<b>応募に当たっての注意</b> 登録を希望する学生は、できるだけ説明会に出席してください。なお、体調不良や他の講義への出席などの「正当」な理由で説明会へ出席できない学生は、事前にメール(otsubo@econ.kyushu-u.ac.jp)にて連絡をしてください。選抜が必要な場合は、説明会への出席の有無や書類選考により選抜を行います。					

# 経済・経営学演習

( 岸野 早希 ゼミ )

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	人的資源管理	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	岸野早希	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	経営学Ⅰ・Ⅱ		キーワード	人的資源管理、組織行動	
全体の教育目標	・専門知識を活かして物事を様々な角度から考えられるようになること		個別の学習目標	企業経営における「ヒト」という経営資源の重要性を理解すること	
<b>授業の概要</b> このゼミでは人的資源管理論や関連分野である組織行動論、経営組織論を中心とした研究を行っていきます。3年次には教科書の輪読やグループ研究を通じて卒業論文に向けた専門知識の習得や研究方法を学びます。また、これらの活動を通じて卒業論文につながるテーマを見つけてもらい、4年時にはそのテーマに基づいた卒業論文へと取り組んでもらいます。現時点では講義計画に応じて3・4年別と3・4年合同のゼミを実施しようと考えております。					
<b>授業計画</b> <前期>第1回 ガイダンス、第2回～ 指定図書の輪読、グループ研究 <後期>合同ゼミに向けたグループ研究、卒業研究					
<b>授業の進め方</b> 前期：指定図書の輪読が中心 後期：グループ研究、発表準備が中心			<b>教科書及び参考図書</b> 【教科書】 上林 憲雄・厨子 直之・森田 雅也(2018) [新版]『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣 【参考書】		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 出席、課題への取り組み、ゼミへの貢献を総合的に評価します。			<b>その他</b> 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでの議論や研究を行いますので必然的に人との関わり合いが多くなります。</li> <li>・他大学との合同ゼミを実施しますので、授業時間外での活動や遠征費が発生することがあります。</li> </ul>					
<b>応募に当たっての注意</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミへの参加を希望する場合は必ずゼミ説明会へ出席してください。説明会は対面とオンラインの両方を開催する予定です。</li> <li>・ゼミの志望理由書については「なぜ本ゼミに参加したいのか、将来どのようなキャリアを歩みたいと考えているか」という点を必ず含めて作成してください。</li> <li>・経営学Ⅰ・Ⅱを受講していることが望ましいです。</li> <li>・応募人数の如何に関わらず面接をしますので、申込書に必ず連絡のとれるメールアドレスの記載をお</li> </ul>					

願います。(面接の実施方法については来年1月の状況を鑑みて判断します。)

- 選抜となった場合には GPA と申込書、面接の内容を鑑みて評価をします。
- 対面でのゼミ説明会の情報やオンラインでの説明会の zoom の URL 情報は Moodle の「2022 年度通年・火 4 火 5・経済・経営学演習:3 年生(岸野 早希)」の第 15 回に記載する予定ですので、ご確認ください。

# 経済・経営学演習

( 中本龍市 ゼミ )

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	経営組織	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	中本龍市	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	経営学Ⅰ・経営学Ⅱの履修が望ましい		キーワード	経営学	
全体の教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営学の分析枠組みを利用して、組織の分析ができるようになること</li> <li>・プレゼンテーション能力(書く能力と話す能力)を獲得すること</li> </ul>		個別の学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営学や社会学の考え方を使えるようになること</li> <li>・定性的、定量的な調査・分析ができるようになること</li> <li>・対話を通して相手の主張を理解できるようになること</li> </ul>	
<b>授業の概要</b> 組織の成長、存続、進化を題材にします。このうち、来年度は、特にアントレプレナーシップ(起業家活動)に焦点を当てて、スタートアップ、中小企業、大企業の中での、起業家活動について理論的、実務的に理解を深めることを目的にします。					
<b>授業計画</b> 第一回 イン트로ダクション 第二回 プレゼンテーションと討議 …以降続き。					
<b>授業の進め方</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輪読</li> <li>・報告</li> <li>・討議</li> </ul>			<b>教科書及び参考図書</b> 【教科書】 清水洋(2022)『アントレプレナーシップ』有斐閣 【参考書】 加藤雅俊(2022)『スタートアップの経済学 -- 新しい企業の誕生と成長プロセスを学ぶ』有斐閣		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 参加、発言、課題の提出(合計で100%)			<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染拡大防止のため、交流や調査などは例年通りにはいかないと想定されることに注意してください。</li> <li>・例年は3回生と4回生の合同で行います。ただし、感染状況によっては感染拡大防止対策のため、別々に行う可能性があります。</li> <li>・またインゼミや外部講師招聘も実施できない可能性があります。</li> </ul>					
<b>応募に当たっての注意</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミの説明会はオンデマンド方式です。YouTubeで随時ご覧ください。</li> <li>・質問があれば教員にメールで問い合わせてください。ryunakamo@gmail.com</li> <li>・現在所属している先輩方に直接おたずねになった方がゼミの雰囲気伝わります(このとき得られた内容があれば、志望理由に含めてください)。</li> </ul>					

# 経済・経営学演習

( 丸田起大 ゼミ )

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	管理会計	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	丸田 起大 (まるた・おきひろ) maruta@econ.kyushu-u.ac.jp	授業対象学生 及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	会計学Ⅰ・Ⅱを履修していること		キーワード	会計学・経営学	
全体の教育目標	管理会計の基礎知識と実務への応用力を身につける		個別の学習目標		
<b>授業の概要</b> 管理会計とは、経営者・管理者の意思決定・業績評価のために、組織の内部者向けに作成・活用する会計です。財務会計とは違い、管理会計は企業ごとに個性があり、優れた企業には優れた管理会計の仕組みがあります。管理会計情報は、インターネットで検索しても見つけることができない、企業秘密の情報です。よって、管理会計のノウハウは、同業他社や異業種へ転職する際にも、魅力的なスキルとして評価されています。ゼミでは、教科書・論文で公表されているもののほか、様々な業種の組織から特別に入手した社内資料を活用します。そのほか、公認会計士試験や簿記検定などの各種資格試験の過去問題も活用して、力試しをします。このゼミの特色は、会計学と経営学の両方の知識を身に付け、実際に実践してみるところです。ゼミは、原則として3・4年生合同(大学院生も参加)で実施しています。					
<b>授業計画</b> 前期:管理会計の基礎知識を習得するために、教科書の発表・質疑、各種資格試験レベルの計算練習、ケーススタディなどをおこないます。 後期:管理会計のトピックを選び、企業への聞き取り調査、学園祭での起業体験、他大学とのゼミ交流などをおこない、個人研究や共同研究の成果を論文にまとめます。					
<b>授業の進め方</b> テキストの各章の担当者を割り当て、パワーポイントによる報告者のプレゼンテーションにもとづいて、全員参加によるディスカッションをおこないます。九大祭出店の結果を分析したり、個人・グループでフィールド調査に向いて、成果を個人論文・共同論文としてまとめ、発表会を実施します。			<b>教科書及び参考図書</b> 参考として、過去に使用した教材を挙げておきます。 MBA テキストなど英文教材を採用する場合があります。 ・ジャンバルボ『管理会計のエッセンス』同文館 ・浅田孝幸『管理会計・入門』有斐閣アルマ ・國部克彦『1からの管理会計』中央経済社、など		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 出席状況(ゼミ、各種行事、フィールドワーク) 参加態度(プレゼンテーション、ディスカッション) ゼミ論文(3年次は共同論文、4年次は個人・グループ論文)			<b>その他</b> 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> 九大祭への出店によるビジネス体験、管理会計の実務担当者へのインタビュー、企業からのゲストスピーカー招聘、経済学部ポスター発表会への参加、他大学とのゼミ交流(実績:北海道大学、中村学園大学、下関市立大学、熊本学園大学など)、OB/OG との交流などを実施しています。					
<b>応募に当たっての注意</b> ・ <u>ゼミ募集に関する連絡(ZoomのURL等)は、経済HPの「ゼミ関連情報」サイトからおこないます。</u> ・オープンゼミは実施しません。 ・応募は、原則として、 <u>ゼミ説明会への参加を条件とします(出席を記録に残します)</u> 。参加できない場合は、事前にメール(maruta@econ.kyushu-u.ac.jp)で相談してください。 ・選考の参考とするために、演習参加申込書には、志望理由、ゼミ説明会の感想、進路希望(民間・公務員・専門職・進学など)、所属サークル、アルバイト歴、自己PR、および連絡用のメールアドレス(PCとケータイの両方)を必ず記載してください。 <u>記載に不足がある場合は選考に影響する可能性があります。</u> 必要に応じて面談をする場合があります。 ・このゼミは、例年、副演習は募集していません(副専攻プログラムの他学部生を除く)。					

# 経済・経営学演習

(大石桂一ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	企業会計	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	大石桂一	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	会計学Ⅰ・Ⅱを履修していること		キーワード	会計、財務諸表、企業分析	
全体の教育目標	会計情報を使いこなせるようになること、グループ・ワークができるようになること、およびプレゼンテーションとディスカッションの能力を高めること。		個別の学習目標	財務会計の制度と理論を理解したうえで、企業を分析する力を養うこと。	
<b>授業の概要</b> 本演習では、会計を有用な道具として使いこなせるようになることを目標としている。そのためにはまず、会計制度とその背後にある理論を理解することが必要である。プレーを楽しむためには、 <u>ある程度はルールを学ばなければならない</u> からである（つまり「ルールの学習」と「実際のプレー」とのバランスが重要なのである）。そのうえで、実際に会計情報を使って様々な分析を行う。 また、ゼミは基本的に3・4年生合同、2コマ連続で行う予定である。なお、必要に応じてサブゼミを行うこともある。					
<b>授業計画</b> 前期は、基本的なテキスト（受講者と相談の上で決定する）をもとに、財務会計の制度と理論について理解し、後期にはそれを応用して具体的な分析・研究を行うことを考えている（グループ・ワーク）。後期の具体的な分析・研究内容については、受講者の理解と関心に応じて決定する。 また、年度末には各自あるいはグループでの分析・研究の結果をゼミ論文にまとめてもらう。					
<b>授業の進め方</b> あらかじめ報告者（グループ）を決め、プレゼンテーションとディスカッションの形式で行う。			<b>教科書及び参考図書</b> 教科書・参考書は受講生の関心等を勘案し、相談のうえ決定する。		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 平素の成績（プレゼンテーションのレベル、ディスカッションの内容と積極性、および勤勉性）と年度末のゼミ論文で評価する。			<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本演習では学生による自主的な運営を旨とする。テーマや分析対象の選定、ゼミ合宿や飲み会の企画、学園祭への参加、インゼミの開催、および工場見学や企業訪問の計画など、自由に意見を出し合って、相談してほしい。その際に私はアドバイザーとしての役割を果たす。</li> <li>・年度末のゼミ論文（個人で書いてもよいし、グループで書いてもよい）の提出は必須とする。</li> </ul>					
<b>応募に当たっての注意</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンゼミは実施しない。</li> <li>・受講希望者はゼミ説明会には必ず参加すること。授業との重複など、正当な理由により参加できない場合は、メールにて連絡のうえ(oishik@econ.kyushu-u.ac.jp)、指示を仰ぐこと。</li> <li>・希望者多数の場合は、申込書に基づき選抜する。選抜に当たっては志望理由を重視する。</li> <li>・推奨基本科目(会計学Ⅰ・Ⅱ)の履修(単位取得ではない)を応募の条件とする。</li> </ul>					

## 経済・経営学演習 (潮崎智美ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	財務会計・企業分析	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	潮崎智美	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	会計学Ⅰ、会計学Ⅱを履修していることが望ましい。		キーワード	会計学、財務会計、企業分析	
全体の教育目標	ビジネス・パーソンとなるのに不可欠な会計学の知識やスキルを習得することを目的としています。		個別の学習目標	財務諸表が読める。 企業を総合的に分析できる。	
<b>授業の概要</b>					
<p>本演習では、株主や債権者等の企業外部の利害関係者に対して報告をする「財務会計」を、新聞記事や雑誌記事などを多用して学習すると同時に、インターネットやデータベースなどを通じて収集した会計情報を分析する「企業分析」の手法を学びます。ゼミは基本的に3・4年合同で開催する予定です。</p>					
<b>授業計画</b>					
<p>第1回目のオリエンテーションの後、前期は「財務会計」または「企業分析」領域の文献の輪読(3・4年生)を行います。後期、3年生は例年日経STOCKリーグ(<a href="https://manabow.com/sl/">https://manabow.com/sl/</a>)に参加して、バーチャル投資を行い、グループワークにより財務諸表分析をベースとした論文を完成させます。グループワークでは、インターネット情報、新聞・雑誌記事、図書館資料、データベースなどを用いて企業の財務情報および非財務情報を収集し、投資テーマを選定して分析対象企業を選択し、企業分析や業界分析を行います。4年生は、学生それぞれの進路に沿ったテーマを選択し、卒業論文を執筆します。</p> <p>ゼミ論文や卒業論文は、不確実性の高まる社会のなかで、グローバル企業やローカルな企業がどのようなビジョンや戦略を持って企業活動を行い、どのような成果を挙げているかを重視したものとします。</p>					
<b>授業の進め方</b>			<b>教科書及び参考図書</b>		
担当者によるテキストや研究内容の報告 ⇒ディスカッション			<b>【教科書】</b> 学生の適性や希望を考慮の上、決定します。参考までに、令和4年度は、伊藤邦雄(2022)『新・現代会計入門 第5版』日本経済新聞社、令和3年度は、伊藤邦雄(2021)『企業価値評価』日本経済新聞社を輪読しました。 <b>【参考書】</b> ゼミ内で指示します。		
<b>試験・成績評価の方法等</b>			<b>その他</b>		
出席状況、授業態度(ゼミへの関わり方や発言内容) レポートなどにより評価します。			演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できます。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>ゼミ論文・卒業論文を作成し、報告してもらいます。</li> <li>インターゼミ、企業訪問、講演会、交流会などを行う予定です。ゼミ合宿、ゼミコンパなどは、学生の自主性を尊重して決定します。</li> </ul>					
<b>応募に当たっての注意</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>オープンゼミは実施しません。</li> <li>ゼミ説明会を実施します(場所日時は別途指示します)。参加必須ですが、やむを得ず参加できない場合には、その旨、メールで知らせてください。<a href="mailto:shiosaki@econ.kyushu-u.ac.jp">shiosaki@econ.kyushu-u.ac.jp</a></li> <li>申込書には、簡単な自己紹介・自己PRに加え、大学生活においてこれまでに何をしてきたか、これから何をやる予定であるか、大学を卒業して何をやるつもりかを含めてください。</li> <li>選考が必要な場合には、まず志望理由を重視し、成績も考慮したうえで決定します。</li> </ul>					
<b>演習参加申込書の提出方法(※提出にあたっては、教員が ■ と指示している提出方法に従うこと。)</b>					
第1次募集 <input type="checkbox"/> 手書き <input type="checkbox"/> Wordファイル <input checked="" type="checkbox"/> いずれも可 第2次募集 <input type="checkbox"/> 手書き <input type="checkbox"/> Wordファイル <input checked="" type="checkbox"/> いずれも可					

## 経済・経営学演習 (小津 ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	SDGs時代の財務報告	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	小津 稚加子	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	会計学Ⅰまたは会計学Ⅱが推奨科目です。		キーワード	企業の経営分析と財務報告、企業の社会的責任、ESG、グループワーク	
全体の教育目標	・財務諸表の読み方、学部レベルでの専門的な文章の書き方、プレゼンの仕方の習得		個別の学習目標	・それぞれの関心にしたがって目標を立てて、修了研究を作成する。	
<b>授業の概要</b> <p>このゼミでは、企業の会計や財務報告について理解を深めます。まず、財務諸表を読むための基本を、教科書をつかって復習します。つぎに、SDGs（持続可能な開発目標）時代における企業の財務報告について、書物や報告書を読み、企業の事例を調べます。</p> <p>SDGsとは、持続可能でより良い世界を目指す国際目標です。17のゴールがあり、地球上の誰一人取り残さない（leave no one behind）ことを誓っています。ゼミ教官自身は開発途上国に進出する日本企業を皆さんの先輩たちと勉強しましたが、これからゼミに入る学生さんは、それぞれの興味、関心を大切に深掘りしたいテーマを選んでください。例えば、水、食品ロス、教育の機会といった身近な話題から、ESG（企業の環境・社会・ガバナンス）や企業の人的資本の開示まで、さまざまな題材があります。ゼミの時間に互いに関心を紹介しあい、それぞれが視野を広げていくのが目標です。</p> <p>このように、持続可能な社会を作るために、私たちができることや企業の取り組みについて理解を深め、さらには、課題や限界があるときにはそれは何であるか、なぜ克服が困難であるのかを考える機会にします。</p>					
<b>授業計画</b> <b>春学期・夏学期：</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月から6月：教科書の輪読をつうじて、①企業会計の学習と、②財務報告をトピックごとに理解を深めます。</li> <li>・7月：復習と秋学期以降の学習計画（修了研究テーマに向けてアイデア出しなど）</li> <li>・夏休みの最終週か秋学期の最初の週：他大学との合同ゼミを予定しています。</li> </ul> <b>秋学期・冬学期：</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月～：修了研究を口頭報告します。会計や財務報告、企業の業績開示、非財務情報開示に関するテーマなら何でもいいです。修了研究は最初に、各自、関連文献を読むところから始めます。ゼミ生の前で説明し、意見を求める機会になります。企業の報告書をつかって、環境・社会・ガバナンスに関する情報がどのように報告されているか、調べる人もいます。全員で修了研究報告書を完成させるのが目標です。</li> </ul>					
<b>授業の進め方</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輪番で教科書を読みます。</li> <li>・順番に、報告担当、質問担当、司会担当を持ち回ります。</li> <li>・レジュメは、原則、事前（3日前くらい）に提出します。事前準備をしてからゼミに臨みます。</li> </ul>			<b>教科書及び参考図書</b> <b>【教科書】</b> 伊藤邦雄著『新・現代会計入門』日本経済新聞社 <b>【参考書】</b> さしあたり、蟹江憲史著『SDGs（持続可能な開発目標）』中公新書を紹介しします。		
<b>試験・成績評価の方法等</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席を前提とします。</li> <li>・平素のゼミ活動（予習、発言、役割など）を考慮して総合的に判断します。</li> </ul>			<b>その他</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できます。</li> </ul>		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生は、公務員試験、国家試験（税理士、公認会計士等）、就職活動、語学留学、サークル活動とゼミ活動</li> </ul>					



を両立していました。各種試験を受けるひとは、試験前の週に自主学習日を取ることができます。  
・コロナ禍前は夏にゼミ合宿を大分大学、鹿児島国際大学としていました。いまは、年 2 回オンラインで合同ゼミをしています。

### 応募に当たっての注意

#### ・ゼミ説明会は次の通り。

第 1 回:12 月 13 日(火)15:00～15:45。原則対面/ハイフレックス(教室は E-201)

第 2 回:12 月 20 日(火)15:00～15:45。原則対面/ハイフレックス(教室は E-201)

第 3 回:12 月 21 日(水)または 12 月 26 日(月)12:00～13:00 のうちの 30 分。

★第 1、第 2 回説明会は、ゼミ生が教室にてやります。オンライン参加希望者は、ゼミの Moodle に登録のうえ、当該回から参加できます。

<https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/course/view.php?id=43339>

科目名:2022 年度通年・火 4 火 5・経済・経営学演習(小津 稚加子)

★第 3 回は、体調不良ややむをえない事情により第 1 回・第 2 回に参加できなかったひとのために、個別に開催します。

ゼミ説明会は必ず出席してください。

質問があるひと、第 3 回のアポは、[ozu@econ.kyushu-u.ac.jp](mailto:ozu@econ.kyushu-u.ac.jp) へどうぞ。

# 経済工学演習

(藤田 敏之 ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	環境経済学, ゲーム理論の文献 輪読と自由発表	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開 講学期等	通常講義 通年	担当教員名	藤田 敏之	授業対象学生 及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	論理的思考能力が高く, 積極的 に学習し, かつ協調的な人。		キーワード	環境規制, 外部性, 環境評価, 資源, 廃棄物, 非協力ゲーム, 戦略, 均衡	
全体の教育目標	環境経済学, ゲーム理論を深く 学ぶ。報告を行い他人の報告を 聞くことによって効果的なプレ ゼンテーションの仕方を学ぶ。		個別の学習目 標		
<b>授業の概要</b> 教員の専門である環境経済学とゲーム理論の入門から中級までの内容を学ぶ。3年ゼミでは教科書を読み、環境経済学とゲーム理論の基本的内容をしっかり身につける。4年ゼミでは3年次の学習を踏まえて環境のゲーム理論的分析に関する論文や研究書を読み、専門的な分野にふみこんで学習する。現在のところ、3・4年ゼミは合同で行う予定である。ゼミ論文を課すことはしないが、年度末には全員にレポートを課す。					
<b>授業計画</b> 前期, 後期ともに以下の予定で進める。もちろん受講者数によって細かなスケジュールは変化する。 第1回・・・ガイダンス, 自己紹介, 第2回, 第3回・・・教員による補足的講義 第4回以降・・・受講者による報告および討論 (受講生1人につき各期最低1回の発表をお願いしたい。)					
<b>授業の進め方</b> 演習形式で行う。教員が講義をするのではなく, テキストの章を割り当てられた受講者の発表と討論によって授業を進める。報告者が責任をもった報告を行うことと受講者の積極的な参加を希望する。			<b>教科書及び参考図書</b> 【教科書】未定。R4年度は栗山・馬奈木『環境経済学をつかむ』有斐閣, 渡辺『ゼミナール ゲーム理論入門』日本経済新聞出版社を使ったが変更の可能性はある。 【参考書】特になし。ゼミ中に適宜指示をする。		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 試験は行わない。成績評価については, 出席, 発表内容, ゼミ中の態度, レポート内容から総合的に判断するが, 出席を最重要視する。			<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> 本ゼミではすべての受講生が卒業時に胸を張って専門的な学習ができたと言えるようなレベルに達することを目指し, そのサポートをする。環境経済学やゲーム理論を究めたいという強い意欲をもつ学生と一緒に学んでいきたい。ゼミ生が将来自分の研究仲間となって, ともに刺激しあうというのが私の夢である。各種企画は受講生の意欲や希望に応じて検討する。					
<b>応募に当たっての注意</b> まずオープンゼミを開催する予定はありません。参加を希望する学生は, オンラインで開催される説明会に出席した後に申込書で以下を明記してください。ゼミ生を選考するにあたって, <b>成績よりも申込書の内容を重視します</b> 。1. これまでの学生生活 (400 字以上) 2. 環境経済学またはゲーム理論に対する想い (600 字以上) 3. 趣味などについての特記事項, アピールポイント (任意)。やむを得ない理由で説明会に参加できない学生は moodle のゼミ説明会ページで登録のうえ, 公開される説明会動画を視聴してください。 <b>説明会に参加しておらず, さらに動画の視聴もしていない学生には原則としてゼミ受講を許可しません</b> 。質問のある方はメールアドレス tfujita@econ.kyushu-u.ac.jp まで連絡をお願いします。					

# 経済工学演習

(池下 研一郎 ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	マクロ経済学と日本経済	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	池下 研一郎	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特にありません。		キーワード	マクロ経済学, 日本経済	
全体の教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 経済学的な視点から物事を分析的に考察できる。</li> <li>➢ プレゼンや対話, 論文執筆などを通じて, 自らのアイデアを効果的に表現できる。</li> </ul>		個別の学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 現代的なマクロ経済学のツールを理解し, 利用できる。</li> <li>➢ マクロ経済学的な観点から日本経済の課題や特徴を描き出せる。</li> </ul>	
<b>授業の概要</b> これまでの日本経済を振り返ると, 1990年代以降, バブル崩壊, デフレーション, 膨張する債務, 少子高齢化などの課題に直面し, 模索を続けてきました。その一方で日本経済の特徴や課題を理解し, 分析するためにはマクロ経済学の分析ツールが欠かせません。来年度のゼミでは, マクロ経済学に対する理解を深めつつ, 日本経済の特徴と課題を探っていきます。					
<b>授業計画</b> ゼミの前半では, 中級レベルの教科書を使ってマクロ経済学の基礎を一通り学ぶと同時に, 経済分析や論文執筆に必要なテクニックを修得します。後半では, より高度な文献を輪読し, データを集め, 日本経済の特徴や課題について議論を深めていきます。またゼミでの学修内容を踏まえた学術論文(3年生はゼミ論文, 4年生は卒業論文)を執筆します。					
<b>授業の進め方</b> 報告者によるプレゼンテーションと参加者によるディスカッションを中心に授業を進めていきます。			<b>教科書及び参考図書</b> 【教科書】ゼミ生と話し合っ決めてます。 【参考書】適宜紹介します。		
<b>試験・成績評価の方法等</b> ゼミでの報告, 議論での参加状況, 課題の提出, ゼミ論文をもとに評価を行います。			<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 文献の読み方, 文章の書き方, プレゼンテーションの方法まで丁寧に指導します。</li> <li>➢ 新型コロナウイルスの感染状況(とゼミの雰囲気)次第ですが, 通常のゼミ以外にも懇親会, 工場や日銀の見学など行いたいと思いますので積極的に参加してください。</li> <li>➢ ゼミでの学修は大変な部分もありますが, 講義とは違う充実感も体験できます。意欲的な学生の参加を期待しています。</li> </ul>					
<b>応募に当たっての注意</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ ゼミ説明会への参加は任意ですが, できるだけ参加してください。ゼミについて質問がある場合には次のアドレスにご連絡ください(<a href="mailto:ikeshita@econ.kyushu-u.ac.jp">ikeshita@econ.kyushu-u.ac.jp</a>)。</li> <li>➢ オープンゼミは実施しません。</li> <li>➢ 応募者が多数の場合には, 志望理由書の熱量を考慮して選抜します。</li> </ul>					

## 経済工学演習 (山崎 大輔 ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	統計学・データ分析	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	山崎 大輔	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	学習意欲があること。 ゼミに積極的に参加すること。		キーワード	統計学、計量経済学、データ分析、データサイエンス	
全体の教育目標	統計学の手法を理解した上で、実際のデータを用いた分析を行うことができる。 ゼミでの発表を通して、プレゼンテーション能力を養う。		個別の学習目標	統計学・データ分析に興味・関心を持つ。	
<b>授業の概要</b> 本ゼミでは、統計学・データ分析の手法を学び、各自で決めたテーマに関するデータ分析を行います。このゼミでは、計量経済学の手法に加えて、近年のデータサイエンスにおいて多く用いられているような、実用的な分析手法についても学んでいきます。さらに、「R」や「Python」を用いた実習と、ゼミ生各自の興味のあるテーマについてのデータ分析を行います。なお、3・4年合同でゼミを行う予定です。					
<b>授業計画</b> 前期：統計学・データサイエンスに関するテキストを読み進める。 これと並行して、コンピュータ・統計ソフトを用いた実習を行う。  後期：前期に引き続き、テキストの輪読と、コンピュータ・統計ソフトを用いた実習を行う。 また、ゼミ生各自の興味・関心のあるテーマについてのデータ分析を行う。 さらに、分析結果をゼミで発表して、レポートにまとめる。					
<b>授業の進め方</b> テキストの輪読や、コンピュータ・統計ソフトを用いた実習を行います。また、各自の興味のあるテーマについてのデータ分析を行い、分析結果をゼミで発表します。			<b>教科書及び参考図書</b> 【教科書】初回のゼミで話し合って決めます。 参考までに、これまでのゼミでは、 金森敬文『Pythonで学ぶ統計的機械学習』オーム社 照井伸彦『ビッグデータ統計解析入門』日本評論社 Stock and Watson “Introduction to Econometrics” (和訳：宮尾龍蔵 訳『入門 計量経済学』共立出版) などを用いました。 【参考書】適宜紹介します。		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 平素の成績（出席、ゼミでの報告、レポートなど）に基づいて成績評価を行います。			<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> ゼミの企画・イベント(懇親会など)については、ゼミ生と話し合っています。					
<b>応募に当たっての注意</b> 本ゼミでは、オープンゼミは実施しません。 <b>ミスマッチを防ぐため、本ゼミへの応募を考えている方は、できるだけゼミ説明会に参加してください。</b> ゼミ説明会の詳細については、ゼミナール関連情報の山崎ゼミのページ <a href="https://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~seminar/profile.php?zemi_id=50">https://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~seminar/profile.php?zemi_id=50</a> に情報を掲載します。 都合によりゼミ説明会に参加できない場合は、山崎( <a href="mailto:yamazaki@econ.kyushu-u.ac.jp">yamazaki@econ.kyushu-u.ac.jp</a> )まで連絡ください。 なお、応募者が多い場合は、志望理由と成績に基づいて選抜を行います。					

# 経済工学演習

( 瀧本 太郎 ゼミ )

授業科目名	経済工学演習		講義題目	データサイエンス入門	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	瀧本 太郎	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	事前の準備やゼミでの発言はもちろん、積極的にゼミ活動に参加することに加え、“知的好奇心”と“やる気”		キーワード	因果推論, データサイエンス, 機械学習, ファイナンス, 地域データ, EBPM, R, Python	
全体の教育目標	統計的手法に基づく分析を行うプレゼンテーション能力を養う グループでの学習・研究・発表を通じ、広く社会性を養う 国際性と英会話力も少し		個別の学習目標	自分でテーマを見つけ、ゼミでの分析を通じて、データサイエンスの専門家としての自信をつけること	
<b>授業の概要</b> 無料で配布されている統計ソフト「R」と「Python」を使って、様々な統計的分析手法とその応用例を学びます。特に、貪欲に知識を吸収し、データサイエンスに関する知識をこれからの人生における強力な武器にしたい人におすすめです。					
<b>授業計画</b> ゼミは3・4年生合同、2コマ連続の予定 1. 前期：『統計的因果推論の理論と実装』, 『ファイナンス機械学習』 2. 前期最終日もしくは夏季：ゼミ論文（3年生）, 卒業論文（4年生）に向けたテーマの設定 3. 後期：『統計的因果推論の理論と実装』, 『地域データ分析入門』, ゼミ論文・卒業論文の作成 通年：各週に公表された統計データについての報告					
<b>授業の進め方</b> 報告, 実習, 解説			<b>教科書及び参考図書</b> <b>【教科書】</b> 1. 高橋（2022）『wonderful R 5 統計的因果推論の理論と実装：潜在的結果変数と欠測データ』, 共立出版 2. デ・プラド（2019）『ファイナンス機械学習：金融市場分析を変える機械学習アルゴリズムの理論と実践』, 金融財政事情研究会 3. 林他（2021）『地域データ分析入門：すぐに役立つEBPM実践ガイドブック』日本評論社 <b>【参考書】</b> 1. 蓑谷（2007）『計量経済学大全』, 東洋経済新報社 2. Wickham and Grolemund（2017）『Rではじめるデータサイエンス』, オライリー・ジャパン 3. Grolemund（2015）『RStudioで始めるRプログラミング』, オライリー・ジャパン 4. Wooldridge（2019）Introductory Econometrics: A Modern Approach, South-Western Pub		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 出席, 報告, 議論への参加, ゼミ論文（3年生）, 卒業論文（4年生）			<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		

### ゼミの企画、その他特記事項

- これまでゼミ合宿や他大学(京都大学, 山形大学, 兵庫県立大学, 国立台湾大学など)とインターゼミナールをしていますが, 2023 年度については皆さんと相談して決めたいと思います. その他, 他ゼミと合同 BBQ やスポーツ大会などもしています.
- モザンビーク共和国, 中国, ソマリア連邦共和国出身の留学生がゼミで学んでいます. また, 今までに 14 名の先輩が交換留学(フィリピン, フランス, イギリス, ドイツ, アメリカ 2 名, 台湾 2 名, シンガポール 2 名, スウェーデン, ベトナム, 中国, オーストラリア)に行っています.
- ゼミでは, GProE 生, マス・フォア・イノベーション連係学府生も学んでいます.
- 博士後期課程の学生が 1 名, 修士課程の学生が 3 名, 当ゼミで学んでいますので, 積極的に院生の先輩と交流してもらえたらと思います.

### 応募に当たっての注意

- 選抜の際は, 志望理由・成績をもとに総合的に判断します.
- 授業や就職活動等でゼミ説明会をやむを得ず欠席する場合は事前に相談してください.
- Moodle 上で情報提供しますので, 「2023 年度経済工学演習(瀧本 太郎)に関する案内」のコース登録をお願いします.
- ゼミ説明会への参加は任意です.

## 経済工学演習（村尾徹士ゼミ）

授業科目名	経済工学演習		講義題目	Pythonで学ぶ深層強化学習	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	村尾徹士	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	機械学習や人工知能に興味があること。		キーワード	機械学習, AI/人工知能, データサイエンス, ディープラーニング/深層学習, 強化学習, 深層強化学習, Python	
全体の教育目標	理論を理解することで手法を適切に使えるようになること。		個別の学習目標		
<b>授業概要</b> <p>深層強化学習は機械学習の中でも「AI（人工知能）」の一般的なイメージに最も近い分野のひとつであり、様々なタスクの自動化を実現します。身近なところでは、イベントやテーマパークの入場チケット価格を需給に応じて変動させるダイナミックプライシングなどに利用されつつあります。最近では<a href="#">Natureの表紙を飾ったソニーの研究</a>もニュースや新聞で取り上げられました。今後さまざまな応用が期待されている新しい分野です。</p> <p>このゼミは「経済工学科に入学したからには機械学習について学びたい」という方に向いていると思います。機械学習の理論やプログラミングの勉強にはまとまった時間が必要です。「まとまった時間を要することにじっくり取り組めることこそが学生時代の特権である」というのが担当教員の考えです。</p>					
<b>授業計画</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 3年次：Python入門書 → 深層学習の教科書である [1] を輪読します。</li> <li>● 4年次：強化学習および深層強化学習の教科書である [2] を輪読します。</li> </ul>					
<b>授業の進め方</b> ゼミ形式の授業です。			<b>教科書</b> [1] 斎藤康毅（著）『ゼロから学ぶ Deep Learning』 [2] 斎藤康毅（著）『ゼロから学ぶ Deep Learning4 強化学習編』		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 平常点で評価します。			<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生のみ登録可		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> 各種企画についてはゼミ生と相談のうえで決定します。					
<b>応募に当たっての注意</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ゼミ説明会に関する情報は Moodle コース「村尾ゼミ募集 2023」にて提供します。               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ コース URL：<a href="https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/course/view.php?id=47615">https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/course/view.php?id=47615</a></li> </ul> </li> <li>● 応募多数の場合の選抜は志望理由書を基に行います（以下の諸点について記述して下さい）。               <ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまでの大学生活について（特に、興味を持った科目や勉強に力を入れた科目があれば述べてください。いずれも複数可です）。</li> <li>2. 卒業後の希望進路に関して考えていること。</li> <li>3. このゼミに興味を持っている理由。</li> </ol> </li> </ul>					

## 経済工学演習（教員名 宮崎 ゼミ）

授業科目名	経済工学演習		講義題目	財政と地方財政	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	宮崎 毅	授業対象学生及び学年等	3年
単位数	4単位				
履修条件	特になし。		キーワード	財政、地方財政、税制	
全体の教育目標	理論と実証の経済分析手法を習得した上で、財政・地方財政・税制に関する問題を経済学的に議論できるようになることが目標です。		個別の学習目標	ゼミでの報告と議論を通じて、プレゼンや議論の能力を養います。グループ学習により、協調性を涵養するとともに、ゼミ生間での交流も図ります。	
<b>授業の概要</b> 本演習では、理論と実証における経済学の分析ツールを用い、財政や地方財政、税制に関する問題を経済学の知識に基づいて学習します。特に、経済理論と計量経済分析の知識を応用分析で使えるレベルまで高め、統計ソフトを使って各自で現実の財政や地方財政、税制を分析できるようになることが目標です。そのため、前期にミクロ経済学を学習し、後期に財政・地方財政・税制を学習します。来年の前期に、計量経済学と統計分析ソフトRを学習します。					
<b>授業計画</b> ・通常、ゼミは合同、または3、4年別で実施しています <b>【前期】</b> 第1回 ガイダンスと日程 第2回－第15回 ミクロ経済学：奥野正寛『ミクロ経済学』を学習し、ミクロ経済学の内容を確認します。前半の消費者行動、生産者行動、市場均衡と、後半のゲーム理論、不完全競争、外部性と公共財を扱う予定です。 <b>【後期】</b> （3年生）第1回－第15回 財政・地方財政・税制：Rosen and Gayer, <i>Public Finance</i> を輪読し、財政や地方財政、税制を経済理論と実証の両面から学習します。					
<b>授業の進め方</b> グループによる報告と討論形式で進めます。報告ではレジュメを用意して担当箇所を発表し、討論者及び全員で討論を行います。			<b>教科書及び参考図書</b> <b>【教科書】</b> 奥野正寛(2008)『ミクロ経済学』東京大学出版会。 Rosen and Gayer, <i>Public Finance (9th)</i> , McGraw Hill. <b>【参考書】</b> 授業中に、適宜指示。		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 出席点50%、平素点50%（発表や討論、課題など）			<b>その他</b> 演習参加の申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できます。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> ・経済学をもう一度しっかり学習したい、経済学に基づいて財政や地方財政を議論できるようになりたいという学生にお勧めのゼミです。 ・飲み会やOB会、ゼミ合宿、スポーツ大会も行いますので、これらの企画には積極的に参加しましょう。例年、ゼミ合宿(九重)を9月に、スポーツ大会を6月(浦川ゼミ、大西ゼミ、瀧本ゼミ)に行っています。					



## 応募に当たっての注意

- ・**ゼミ説明会は対面で実施予定です。**
- ・オープンゼミの日程(オープンゼミは自由参加とします。ただし参加していた方が選抜の際、有利です)  
日時:12月9日17時~17時半 場所: E-323 (ゼミの説明:10分、ゼミの見学:20分)。
- ・3年生は、3,4年続けて履修することを前提として履修してください。
- ・ゼミ説明会への参加を強く推奨します。ただし、やむを得ず参加できない学生については、事前にメールで連絡をするようにしてください。
- ・授業の成績だけではなく、ゼミでの学習意欲を重視します。特に、財政や地方財政への強い問題意識を持っている学生を望みます。大学院、国家公務員や地方公務員志望の学生も、大歓迎です。応募者が比較的多い場合は、志望理由や成績によって選抜を行います。
- ・3年或いは4年次に財政を履修することになります。
- ・来年の前期に星野 匡郎・田中 久稔『Rによる実証分析 一回帰分析から因果分析へ』で計量経済学と統計の基本、Rの使い方を学習します。統計、確率論、相関関係と因果関係、単回帰、重回帰、ランダム化実験、マッチング法、不連続回帰デザイン、操作変数法などを学習する予定です。また教科書に載っているRコードを使って、Rの導入や基本操作、Rによる回帰分析を学習します。
- ・4年生は、各自で卒業論文を執筆します。
- ・連絡先:[tmiyazak@econ.kyushu-u.ac.jp](mailto:tmiyazak@econ.kyushu-u.ac.jp)

## 演習参加申込書の提出方法(※提出にあたっては、教員が ■ と指示している提出方法に従うこと。)

- |       |                              |  |                                |
|-------|------------------------------|--|--------------------------------|
| 第1次募集 | <input type="checkbox"/> 手書き | <input checked="" type="checkbox"/> Wordファイル | <input type="checkbox"/> いずれも可 |
| 第2次募集 | <input type="checkbox"/> 手書き | <input checked="" type="checkbox"/> Wordファイル | <input type="checkbox"/> いずれも可 |

# 経済工学演習

( 三輪 宏太郎 ゼミ )

授業科目名	経済工学演習		講義題目	証券投資と投資家心理	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	三輪 宏太郎	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし（金融関連の講義の受講歴があれば、なおよし）		キーワード	投資家心理、株価形成	
全体の教育目標	金融の諸問題を、独自に調査し、実務に耐えうる分析調査能力を身につける		個別の学習目標	心理が、投資行動や資産価格形成にどのように影響を及ぼすか理解を深める。	
<b>授業の概要</b> 3年、4年別々にゼミを行います（3年行動ファイナンス、4年株式投資論を想定）。前半部は、テキストを論読し、行動ファイナンスに関する知識を深めることに重点を置きます後半部は、①教員が提示するケースに関する調査・分析②各人が独自で調査したケースについて発表&議論し、人間の心理がいかに投資行動・価格形成に影響を与えるのか理解を深めていただきます。※4年では、株式分析の実務的側面を学び、実際に株式投資戦略を策定し、評価分析をしていただきます。					
<b>授業計画</b> （前期） 第1回 ガイダンス；ゼミの進め方と輪読・課題内容について 第2回以降 輪読発表 （後期） 調査・課題発表など ※適宜、金融に関するケーススタディの回、金融業界の実務家による特別レクチャーの場を設けます					
<b>授業の進め方</b> 基本的に、担当者の発表→質疑応答→教員の解説→課題の議論で進めます。			<b>教科書及び参考図書</b> 【教科書】 Ackert, Lucy, Deaves, Richard : Behavioral Finance: Psychology, Decision-Making, and Markets		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 発表50% 出席20% 議論への参加度30%			<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> ※担当教員は、実務家出身のため、実務的側面を重視した内容となります。 （金融業界の就職活動などの相談も可） ※就職活動が前倒しになっている昨今の状況を鑑み、企画に関しては基本的に参加ゼミ生の自主性に任せます。					
<b>応募に当たっての注意</b> ※説明会参加は必須ではありませんが、参加を推奨します。 ※説明会参加の場合、Moodle コース“三輪宏太郎ゼミ 2023 年度説明会”に登録してください。 ※志望理由は、今後、ゼミで学ぶ予定の内容をどのように生かしていきたいかを中心に書いてください					

## 経済工学演習 (浦川 邦夫 ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	社会保障の経済学	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	浦川 邦夫	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし		キーワード	社会保障、教育、格差、貧困	
全体の教育目標	日本や諸外国の歴史・制度・文化に対する理解を深め、現行の社会保障制度に対する問題意識を培う。		個別の教育目標	ゼミ生同士で互いに交流し、討論、データ分析、資料作成、発表等の一連のプロセスを通じて能動的な学習能力を培う。	
<b>授業の概要</b> 今年度の演習では、日本や諸外国の社会保障政策に注目し、医療・介護・年金などの諸制度が、人々の働き方や、国・地域の経済成長、格差・貧困の削減にどのような影響を与えているかについて学ぶ。「少子化」、「介護離職」、「終末期医療」など、現行の社会保障制度が抱える様々な課題に注目しつつ、「ヘルスツーリズム」や「AIの活用」など、地域の基盤産業としての社会保障の可能性にも焦点をあてる。後期は、インゼミに参加し、他大学の学生とのアカデミックな交流を通じて、自分の視野や可能性を大いに広げてもらいたい。					
<b>授業計画</b> 前期…我が国の社会保障制度（医療、介護、年金、保育）に関する具体的かつ専門的な知識を深める。また、社会保障や教育に関する諸政策が、家計の経済活動や国・地域の経済成長に与える影響を分析した研究事例を学ぶ。これらの活動と並行して、計量分析ソフトRを用いた基礎的なデータ分析手法を学ぶ。  後期…家庭環境や教育制度、社会保障政策が格差・貧困に与える影響を分析した理論・実証研究の輪読・発表・討論を行う。インゼミに参加し、他大学の学生との交流機会を積極的に持つ。					
<b>授業の進め方</b> 主に報告・討論のゼミ形式で行う。			<b>教科書及び参考図書</b> <b>【参考書】</b> 権丈善一 (2020) 『ちょっと気になる社会保障 V3』 勁草書房 ロバート・ハイルブローナー (2001) 『世俗の思想家たち』 ちくま学芸文庫		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 平素の発表、討論、提出課題の内容等をもとに総合的に評価する。			<b>その他</b> 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> 他大学とのインゼミ交流や福祉関連施設・裁判所等の見学を通じて学際的な交流を行う予定です。また、状況に応じて、スポーツ大会などのイベントを実施します。					
<b>応募に当たっての注意</b> 入ゼミ希望者は、ゼミの説明会に参加してください。(やむをえず参加できない場合は、事前に浦川のメールアドレスまで連絡してください。) urakawa@econ.kyushu-u.ac.jp					

# 経済工学演習

# ( 教 員 名 葉 ゼミ )

授業科目名	経済工学演習		講義題目	企業分析と研究	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	葉 聰明 (Tsung-ming Yeh)	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	とくになし		キーワード	企業価値、M&A、企業統治	
全体の教育目標	M&Aなどの企業戦略を経済学的に分析し、企業価値への影響について評価する専門知識を身につけること		個別の学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自主的学習の習慣</li> <li>● プレゼンのスキル</li> <li>● コミュニケーション能力</li> </ul>	
<b>授業の概要</b>					
<p><b>3年生の場合</b></p> <p>2023年度では、教員の研究分野であるM&amp;A（企業合併買収）や企業統治を中心に、代表的な教科書を使い、輪読の形で勉強していきます。最近では、テスラ社のイーロンマスク氏がTWITTER社を買収(TOB)しようとしたり、買収金額を変更させようとしたりといった事例からわかるように、日本でも企業戦略として一般的に活用されています。また、ESG（Environment、Social、Governance）経営が世界的に重視されている中、企業統治（Governance）も企業価値を高めるうえで重要な役割を占めています。</p> <p>教科書の輪読を通じて、M&amp;Aや企業統治についての仕組みや論点を勉強したうえで、それらがどのように企業の価値・業績・株価に関連しているのか先行研究の結果を見ていきます。</p> <p><b>4年生の場合（自由選択、希望者のみ）</b></p> <p>M&amp;Aや企業統治、さらにその周辺分野のトピックを受講者（グループ）が選定し、研究プロジェクトを進めていきます。研究プロジェクトの実施に当たって、教員は「文献レビュー」、「研究方法」、「データの収集」、「統計ソフト」、「レポートの書き方」などについて手ほどきをします。</p>					
<b>授業計画</b>					
<p><b>3年生の場合</b> 使用する教科書の内容に従って輪読を進めていきます。</p> <p><b>4年生の場合（自由選択、希望者のみ）</b> 前期では教員は研究の手ほどきをしながら、受講者は各自の問題意識を持って研究のトピックを模索しながら決定します。前期の後半から受講者（グループ）が研究プロジェクトをスタートさせ、後期の終了までに研究を完成させ、レポートをまとめます。</p>					
<b>授業の進め方</b>			<b>教科書及び参考図書</b>		
3年生の場合、教科書を輪読する形式でメンバーが分担して報告、討議を行う。4年生の場合、受講者（グループ）が研究プロジェクトを実施し、定期的に進捗報告をする。			3年生ゼミでは教科書（洋書）を指定する。		
<b>試験・成績評価の方法等</b>			<b>その他</b>		
ゼミへの参加や成果物で全体的に判断する			演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>その他特記事項</b> とくになし					
<b>応募に当たっての注意</b>					
ゼミ説明会：参加必須。ゼミ選抜基準：履修状況や成績など総合的に判断。					
オープンゼミ実施：なし。授業との重複や就職活動などでやむを得ず参加できない場合、別途面談。					
<b>演習参加申込書の提出方法（※提出にあたっては、教員が ■ と指示している提出方法に従うこと。）</b>					
第1次募集    □手書き        ■Wordファイル    □いずれも可					
第2次募集    □手書き        ■Wordファイル    □いずれも可					

# 経済工学演習

( 内田 交謹 ゼミ )

授業科目名	経済工学演習		講義題目	コーポレートファイナンス	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	内田交謹	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	ファイナンス分野の実証研究に強い関心があること		キーワード	リスク・リターン、株価、投資、企業評価、資金調達、配当、合併・買収	
全体の教育目標	ファイナンス（特にコーポレートファイナンス）に関する主な理論の理解と研究への応用		個別の学習目標	ファイナンスの主要理論を理解した上で実証分析を行い、プレゼンおよびゼミ論文を執筆する。	
<b>授業の概要</b>					
<p>年度当初は企業の投資、資金調達、配当、企業価値評価等に関する基礎的なファイナンス理論の確認およびデータ演習を行い、ファイナンス分野の研究文献の輪読を行います。その後、関心のあるテーマについてグループで実証研究に取り組む予定です。</p>					
<b>授業計画</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第1回～第8回：ファイナンスの基礎理論の確認とデータ演習・発表</li> <li>■ 第9回～第15回：ファイナンス分野の研究論文の輪読と実証分析方法の学習</li> <li>■ 第16回～第30回：ファイナンスに関するグループ研究（データ収集・分析、プレゼン）</li> </ul>					
<b>授業の進め方</b>			<b>教科書及び参考図書</b>		
<p>春休みに指定図書を読んでもらい、4月からはその内容について確認とデータ演習を進めます。その後、指示した文献の輪読やデータ収集・分析を進めます。</p>			<p>【教科書】 適宜指示する。 【参考書】 内田交謹『コーポレート・ファイナンス 第三版』創成社。</p>		
<b>試験・成績評価の方法等</b>			<b>その他</b>		
<p>平素の成績 60%、課題・ゼミ研究40%</p>			<p>演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。</p>		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ インターゼミ(過去、神戸大学、立命館アジア太平洋大学等と実施)。コロナ明けは飲み会。</li> <li>■ 希望者はゼミ説明会に参加してください。</li> <li>■ 採用に当たっては面接を実施する場合があります。</li> </ul>					
<b>応募に当たっての注意</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ゼミでは、自分だけでは不可能な高度な研究に積極的に取り組んでもらいます。</li> <li>■ ゼミに一定以上の時間と労力を割ける学生を募集します。</li> <li>■ 採用にあたっては面接を実施する場合があります。</li> </ul>					

## 経済工学演習（堀 宣昭 ゼミ）

授業科目名	経済工学演習		講義題目	産業組織論： ミクロ経済学の応用理論モデル	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード		
授業方法及び 開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	堀 宣昭	授業対象学生 及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	経済学入門、【基本】ミクロ経済学 I, II、マクロ経済学 I, IIの単位修得。		キーワード	ミクロ経済学・ゲーム理論・情報の経済学・産業組織論	
全体の教育目標	文献を分析的に読解し、自分のアイデアを論理的・効果的に表現するスキルを涵養する。		個別の学習目標	ミクロ経済学の応用理論モデルの役割を理解する。	
<b>授業の概要</b>					
<p>経済学は社会現象の背景にあるメカニズムを考え、理解する学問である。メカニズムを理解するために、経済学は「理論モデル」という数学表現を、対象の文脈に応じて臨機応変に捨てる。ミクロ経済学には様々な応用分野があるが、ゲーム理論、情報の経済学など、メカニズムを考えるためのコアな理論的アイデアは、分野間で意外なほど共通している。よって、ある分野で頻繁に使用される理論モデルの「型」を学ぶことは、異なった分野で理論モデルを作る際にも大いに役立つ。</p> <p>今年度の演習では、主として<b>産業組織論とその周辺領域</b>の学習を通じて、経済学の理論モデルの取り扱いにあたって必要なセンスを涵養する。（産業組織論の具体的な内容は、予定教科書へのリンクやゼミ説明会で確認してください。）今は興味の対象となる分野が定まっていなくても、将来、様々な分野で理論モデルを使って研究を行うことに関心のある学生を歓迎する。ゼミは3・4年合同で行う。</p>					
<b>授業計画</b>			<b>授業の進め方</b>		
[前期]産業組織論のテキストを講読 [後期]各自の興味のある分野の理論モデルの学習			少人数講義＋学生による報告		
<b>教科書及び参考図書（あくまでも予定です。）</b>					
<b>[産業組織論]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 明城聡・大西宏一郎, 2022, 『産業組織のエッセンス』有斐閣 <a href="http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641151000">http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641151000</a></li> <li>● Belleflamme and Peitz, 2015, “Industrial Organization: Markets and Strategies,” Cambridge University Press.</li> </ul>					
<b>[政治経済学その他]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 浅古泰史, 2018, 『ゲーム理論で考える政治学：フォーマルモデル入門』</li> <li>● 澤木久之, 2014, 『シグナリングのゲーム理論』勁草書房</li> </ul>					
<b>試験・成績評価の方法等</b>			<b>その他</b>		
報告の内容及び平素の学習態度（出席も含む）。			演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b>					
<p>本ゼミが理想とする学生は、社会や経済が具体的にどのようなメカニズムで動いているのか、深く考えることが好きな学生です。また、学部・学府一貫プログラムへの応募を考える学生の応募も歓迎します。</p> <p>経済学では、分析のスキルの習得だけでなく、経済学の観点からセンスのある問題意識を絶えず鍛え続けていくことが重要です。そのためには、歴史や政治など、さまざまな公共問題への関心を深めることが肝要です。通常のゼミ以外に、よりカジュアルな日本語文献（新書など）を集中的に講読するための輪読会（合宿？）を予定します。</p>					
<b>応募に当たっての注意</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ オープンゼミは実施しません。</li> <li>■ 応募に当たってゼミ説明会（オンライン）への参加は必須ではありませんが、ミスマッチを防ぐためにも、できるだけ参加しておいてください。説明会は一応録画します。</li> <li>■ 応募者多数の場合は面接をすることがあります。</li> </ul>					

# 経済工学演習

# (室賀貴穂 ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	労働経済学演習	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	室賀貴穂	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	統計学・計量経済学・労働経済学の基礎を理解していることが望ましい。		キーワード	労働経済学、ミクロ実証分析	
全体の教育目標	労働経済学やミクロ実証分析に関する理解を深める。		個別の学習目標	ゼミでの活動を通じた能動的学習	
<b>授業の概要</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 教科書を輪読し、労働経済学で使用されている実証分析手法について理解を深める。</li> <li>● 労働参加・高齢化・教育・結婚等、労働経済学に関わる諸問題について理解を深める。</li> <li>● 受講人数によって変更の可能性はありますが、3-4年の合同でゼミを行う予定です。</li> </ul>					
<b>授業計画</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 教科書や学术论文を輪読する。</li> <li>● グループごとにテーマを決め、データ収集・実証分析・プレゼンテーションを行う。</li> </ul>					
<b>授業の進め方</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 報告・討論</li> <li>● グループワーク</li> <li>● R や Stata を用いた実習</li> </ul>			<b>教科書及び参考図書</b> <p>【教科書】初回ゼミ時に話し合いますが、下記の教科書を予定しています。 川口大司.(2017). 労働経済学—理論と実証をつなぐ. 有斐閣</p> <p>【参考書】 中室牧子, &amp; 津川友介. (2017). 「原因と結果」の経済学: データから真実を見抜く思考法. ダイヤモンド社.</p>		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 平常点をもとに成績評価を行います。			<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> ゼミ生と話し合いの上、ゼミの企画を決めていきたいと思ひます。					
<b>応募に当たっての注意</b> ゼミ説明会への参加を推奨します。 受講者の選抜では、成績だけでなくサークル・部活・アルバイト・資格取得・趣味等の大学での学業以外の活動についても重視しますので、申込書には、志望理由と共に、あなたがこれまでに一生懸命取り組んでいらっしやったことに関しても記述してください。					

# 経済工学演習

# (菅 史彦ゼミ)

授業科目名			講義題目	実践・データ分析	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	菅 史彦	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	統計学・計量経済学の基礎を理解していることが望ましいが、並行履修でも構いません。		キーワード	マイクロデータ分析、計量経済学、労働経済学	
全体の教育目標	データから何がわかって何がわからないのかを知ること。 自分の考えの正しさ・確からしさを示すために、自分でデータを分析できるようになること。 自分の考えを人に伝えるための技術を磨くこと。		個別の学習目標	3年生の目標は、統計学・計量経済学の有用性と限界を理解し、統計ソフトRを使いこなせるようになること。 4年生は、各自でテーマと分析したいデータを見つけ、統計ソフトを使って自力でデータ分析ができるようになること。	
<b>授業の概要</b> ICT技術の発展により、データ分析の技術や知識が活きる場面が増えています。自分や他人の主張・アイデアが正しいこと、あるいは間違っていることを示したいときに、データ分析は強力なツールになります。また、世の中にはデータを使った嘘やごまかしが溢れており、そういったものに惑わされないためにも、データ分析に関する基本的な知識は役に立ちます。 データ分析にも様々なトピックがありますが、菅ゼミでは因果推論をメインテーマに据えています。因果推論とは、データから変数間の因果関係（原因・結果の関係）を見出す手法のことです。一般に、相関関係（二つの変数が連動していること）は、必ずしも因果関係を意味するとは限らず、見せかけの相関や逆の因果に多くの人々が騙されがちです。因果推論を学ぶことで、どのような情報や変数があれば、変数間の因果関係を証明することができるのかを知ることができます。また、それを知ることで、世の中で一般的に用いられている統計分析の問題点やごまかしに気づくことも可能になります。 本演習では、データ分析（統計学・計量経済学）、特に因果推論に関する基本的な知識を身に付けてもらうとともに、実際に統計ソフトを使ってみることで、データ分析の技術を習得してもらうことを目的としています。それにより、データを使って何が出来て、何が出来ないのかを知り、皆さんがデータ分析を将来の仕事や日々の暮らしに役立てることができるようになることを目指します。 ゼミは基本的には3、4年生合同で、大学院生にもたまに参加してもらう予定です。					
<b>授業計画</b> <b>【前期】</b> 3年生は、教科書の輪読（発表&議論）、東京大学社会科学研究所データアーカイブのデータ紹介、およびデータ分析に関する本の発表を平行して行います。教科書の発表では、統計ソフトRを使い、教科書の例の再現と演習問題の解説をしてもらいます。 4年生は、各自関心のあるテーマに沿って東京大学社会科学研究所データアーカイブでデータを見つけ、前期の終わりにデータの概要や関心のある変数の分布や基本統計量について発表してもらいます。発表のタイミングについては、就職活動の進捗状況を考慮し、可能な限り柔軟に決めることとします。 <b>【後期】</b> 3年生は、教科書の輪読の代わりに東京大学社会科学研究所データアーカイブのデータを使い、実際にデータを使った実証分析をしてもらいます。データ紹介と本の発表は後期も続きます。 4年生は、後期の最初に分析の背景や先行研究について発表してもらいます。その後、前期に選んだデータを使い、回帰分析等の手法を駆使して分析し、分析結果について冬休み前に簡単に発表してもらい、学期末に分析を修正し全てまとめたものを発表してもらいます。分析結果はデータ利用報告書としてまとめてもらいます（全員）が、希望者については卒業論文にまとめてもらいます（希望者のみ）。					



前期後期通して、発表内容に関して私が発表者や（学年問わず）全ての参加者に質問するとともに、適宜グループディスカッションも行います。

<p><b>授業の進め方</b> 一人20～30分程度で、毎回3～4人に順番に発表してもらいます。基本的にはスライドを使って発表し、内容について全員で議論します。また、前期は教科書に練習問題があるので、解き方をランダムに当てた一人に解説してもらいます。 データ分析は無料統計ソフト”R”を使って実習を行う。前期にRの使い方、後期はデータの使い方に関するチュートリアルセッションを行い、3年生のうちに回帰分析まで一通りできるようになることを目指します。 必要に応じて毎回私から質問をし、発表者に答えてもらったり、グループディスカッションを行ったりする予定です。</p>	<p><b>教科書及び参考図書</b> 【教科書】 星野・田中（2016）『Rによる実証分析－回帰分析から因果分析へ－』オーム社 【参考書】 伊藤公一朗（2017）『データ分析のカー因果関係に迫る思考法』</p>
<p><b>試験・成績評価の方法等</b> 発表（50%）、出席&amp;授業態度(30%)、宿題(20%)。授業態度は積極性を重視します。</p>	<p><b>その他</b> 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できることとします。四年次から受講する学生は、三年生と同じ扱い（同じ発表内容）とします。</p>

**ゼミの企画、その他特記事項**

- ▶ 四年生が提出するデータ利用報告書は、四年次にスライドを使って発表したものを文章にしてまとめ、必要に応じて加筆修正したものを想定しています。
- ▶ 卒業論文は、上記のデータ利用報告書にさらに加筆修正を行い、きちんと論文としての体裁を整えたものを想定しています
- ▶ 卒業論文については、希望者のみ指導します。ただし、大学院進学希望者や、(留学などの際に)将来的に推薦状が必要となる可能性があると思う学生は、可能な限り執筆することとします。

ゼミ合宿やインターゼミ等の企画はまだないが、希望者がいれば積極的に開催したいと考えています。

**応募に当たっての注意**

- ▶ ゼミ説明会はオンラインで行います。Moodle に説明会用のページ(『2022 年度通年・経済工学演習説明会(菅 史彦)』)を設置し、そこに Zoom のリンクを貼り付けます。
- ▶ ゼミ説明会には可能な限り参加してください。参加できない場合は、Moodle 上にアップされた資料を参照し、質問がある場合はメール(suga“at”econ.kyushu-u.ac.jp)にて連絡してください。
- ▶ 12月12日(月)四限をオープンゼミとするので、ゼミの雰囲気を知りたい場合は参加してください。
- ▶ オープンゼミ参加希望者は、事前に私にメールで連絡してください。

応募数が上限を超えた場合には、統計学・計量経済学への理解度、関心のあるテーマとGPAに基づいて書類選考を行います。そのため、演習参加申込書には、

- ① 統計学や計量経済学に関係する講義をこれまでに受講したことがあるか、
- ② (受講したことがあれば)その時の成績、
- ③ 興味・関心のあるテーマ(統計学や計量経済学でなくても構わない)、
- ④ GPA

を明記してください。

# 経済工学演習

( 北原 知就 ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目		
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名		授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	「微分積分学・同演習AB」、 「線形代数・同演習AB」の単位を修得していることが望ましいです。		キーワード	数理計画法、オペレーションズ・リサーチ	
全体の教育目標	数理的能力、プログラミング能力、コミュニケーション能力、英語力を総合的に伸ばすことを目標とします。		個別の学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門文献を理解できる。</li> <li>2. 自分が理解したことを他人に自分の言葉でわかりやすく説明できる。</li> <li>3. 数理計画法の基本的なアルゴリズムを理解し、プログラミングできる。</li> <li>4. 自ら課題を見つけて勉強や研究を進め、結果をわかりやすくまとめられる。</li> </ol>	
<b>授業の概要</b>					
数理計画法とは、現実の意思決定問題を数学的にモデル化し、得られたモデルをアルゴリズムを用いて解くことによって、効率的な意思決定を目指す方法論です。この授業では、まず数理計画法の理論を基礎から学び、基本的なモデルやアルゴリズムを理解します。同時に、基本的なアルゴリズムをプログラミング言語を用いて記述できるようにします。さらに、データ解析のコンペに参加するなどして、自主性や実践力を伸ばすことを目指します。本授業は3年生と4年生合同で行う予定です。					
<b>授業計画</b>					
本授業は、前期に数理計画やプログラミングの基礎を学習し、後期には、前期に学んだことを実践的な場で生かすことを目指します。そのような取り組みとして、ここ3年間データ解析のコンペティションに参加しています。このような取り組みが今後も続くかは未定ですが、実践力を付ける取り組みは続けていく予定です。					
<b>授業の進め方</b>			<b>教科書及び参考図書</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語または英語で書かれた専門文献を輪読します。</li> <li>2. 演習問題やプログラミング課題を課し、授業中に説明してもらいます。(以上1、2は前期の内容です。)</li> <li>3. データ解析のコンペに参加するなどして、前期に学んだことを実践的に生かせるようにすることを目指します。</li> </ol>			<b>【教科書】</b> ・Python ではじめる数理最適化 岩永二郎他著、Ohmsha ・アルゴリズムとデータ構造、大槻兼資、講談社(2020) ・機械学習のエッセンス、加藤公一、SBクリエイティブ(2018) <b>【参考書】</b> ・適宜指定します。		
<b>試験・成績評価の方法等</b>			<b>その他</b>		
授業参加の様子などから総合的に評価します。			演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できます。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生の皆さんの意見を皆さんと良いゼミを目指していきたいと思っています。</li> <li>2. 皆さんのよい部分を見つけ、伸ばしていけるようなゼミでありたいと思っています。</li> <li>3. ゼミ論文を課すことは、現時点では考えていませんが、データ解析コンペへの参加など、自主的、実践的な学びの機会を設けます。</li> <li>4. 副演習で参加している学生もいます。今年度の参加状況は3年生:経済経営学科1名、文学部1名、</li> </ol>					

4年生:経済工学科1名となっています。

5. ゼミの企画は学生の皆さんの自主性にお任せします。

#### 応募に当たっての注意

1. ゼミ説明会はオンラインで行います。説明会の URL やゼミの資料は、Moodle の下記のページに掲載します。説明会に参加を希望される方は、コース登録をお願いします。

<https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/course/view.php?id=43692>

2. オープンゼミは実施しませんが、ゼミへの参加を希望される場合は、お気軽に担当教員までご連絡ください。

3. ゼミを選ぶ際は、ミスマッチを避けるため、一度は教員と話をしておいたほうが良いと思います。そのため、当ゼミを希望される方は、できるだけ説明会へ出席してください。用事等で出席が難しい場合は、個別対応もできますのでご連絡ください。

4. 選考にあたっては、志望理由を重視します。また、面接を実施することがあります。

5. ゼミについてわからないことがありましたら、お気軽に下記アドレスにご連絡ください。

アドレス: [tomonari.kitahara@econ.kyushu-u.ac.jp](mailto:tomonari.kitahara@econ.kyushu-u.ac.jp) ('at'を@で置き換えてください)

## 経済工学演習 (大西俊郎ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	Bayes統計学入門	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*	(記入不要)	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	大西俊郎	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	「微分積分学Ⅰ・Ⅱ」, 「線形代数Ⅰ・Ⅱ」および「数理統計学Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得済みであること.		キーワード	Bayes統計学, 頻度主義の統計学, 機械学習, Python, R (統計ソフトウェア)	
全体の教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 統計学の理解の深化</li> <li>✓ プレゼンテーション能力の向上</li> </ul>	個別の学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ Bayes統計学および頻度主義の統計学の理解</li> <li>✓ プログラミング言語の修得</li> </ul>		
<b>授業の概要</b> 近年注目を集めている <b>Bayes統計学</b> を学ぶ。統計学は科学の文法と言われることがあり、自然科学・人文科学・社会科学の幅広い学問分野で実証分析・データに基づいた意思決定に用いられている。Bayes統計学の長所は、事前情報とデータを統合することによって合理的な推測を可能にする点にある。未知パラメータの個数が多い場合にパフォーマンスがよいことが知られている。ビッグデータでは多数の未知パラメータを含む統計モデルが用いられるため、今後その重要性がますます高まると予想される。2年次の「数理統計学Ⅰ・Ⅱ」で学んだ内容は、Bayes統計学と対比して <b>頻度主義の統計学</b> と呼ばれる。定評のある <b>機械学習</b> の教科書の輪読を通じて、Bayes統計学の考え方を修得することを目標とする。教科書を分担して輪読するセミナー形式で学ぶ。演習は3・4年合同で、2コマ連続(90分×2)で行う。ただし、2022年度は非開講であるため、2023年度が2年目となる学生はいない。					
<b>授業計画</b> 1. 2023年度の30回の授業で「 <b>パターン認識と機械学習(上)</b> 」を読むことを目標とする <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ Bayes統計学の視点から<b>機械学習</b>と<b>パターン認識</b>の様々な理論や手法を解説した教科書である。特に、上巻は(下巻を読むための準備として)基礎的内容に重点が置かれている。                第1章: 序論, 第2章: 確率分布, 第3章: 線形回帰モデル, 第4章: 線形識別モデル,                第5章: ニューラルネットワーク</li> <li>✓ Bayes統計学の考え方を学ぶ。</li> <li>✓ 頻度主義の統計学を復習するとともに、「数理統計学Ⅰ・Ⅱ」では取り扱わなかった<b>最尤推定</b>や<b>十分統計量</b>などの概念を学ぶ。</li> </ul> 2. 必要な数学知識を補強する <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 上記の教科書の付録, または, 1年次に使用した微分積分学と線形代数学の教科書を利用して, <b>変分法</b>などの必要な数学知識を補強する。</li> </ul> 3. プログラミング言語の修得 <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ Pythonまたは統計ソフトウェアRの初歩的な部分を学び, グラフィック機能を使うことにより教科書の内容を視覚的に理解する。PythonまたはRの利用を通してプログラミングを学ぶことができる。</li> </ul>					
<b>授業の進め方</b> セミナー形式で行う。			<b>教科書及び参考図書</b> <b>【教科書】</b> 「パターン認識と機械学習(上)」 C. M. ビショップ, 丸善出版 <b>【参考書】</b> 数理統計学Ⅰ・Ⅱ, 微分積分学Ⅰ・Ⅱ, 線形代数学Ⅰ・Ⅱの教科書		

<b>試験・成績評価の方法等</b> 演習での発表・質疑応答を総合的に評価する。	<b>その他</b> 演習参加申込を行い，受講を認められた学生だけが登録できる。
---	---

<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 統計学の<b>理論を体系的に修得</b>すること，および，<b>Python や R によるプログラミングを学べる</b>ことが本ゼミの特色である。</li> <li>2. ゼミ論文の代わりに統計検定 2 級（または準 1 級）の合格を課す。2 級は大学基礎科目レベル。検定試験については <a href="http://www.toukei-kentei.jp/">http://www.toukei-kentei.jp/</a> を参照。</li> <li>3. 要望に応じて自主的な勉強会を行うことも可能。経済学部のカリキュラムにない数学（複素関数，ルベーグ積分）の本の輪読，アクチュアリー試験対策を実施したことがある。</li> </ol>
---

<b>応募に当たっての注意</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オープンゼミは行わないが，随時相談を受け付ける。</li> <li>2. ゼミ説明会は参加必須とする。やむを得ず欠席する場合は事前にメールすること。</li> <li>3. 申込書には GPA とともに<b>微分積分学 I・II，線形代数学 I・II，数理統計学 I・II の成績</b>を記入すること。もし応募多数となった場合は，これら科目の成績を重視して選考を行う。</li> </ol>
--

# 経済工学演習

(伊豆永 洋一 ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	モデリングとアルゴリズム	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名		授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	微分積分学Ⅰ・Ⅱ， 線形代数学Ⅰ・Ⅱ を履修済みであること。		キーワード	数理最適化，アルゴリズム，機械学習	
全体の教育目標	数学という共通の言語を用いた論理的な思考法や，明快に表現する能力を身につける。		個別の学習目標	数理最適化や機械学習におけるアルゴリズムを理解し，それらを適切に活用する。	
<b>授業の概要</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>近年，機械学習に代表されるように大量の情報を収集・認識する技術が目覚ましい発展を遂げている。そのような収集・認識された情報から意思決定を行うための技術の一つに数理最適化（数理計画法）がある。</li> <li>本ゼミでは，これらの技術の背後にあるモデリング手法やアルゴリズムを理解することを目標とする。また，プログラミング言語によるアルゴリズム実装やそれを用いた応用分析も行う。</li> </ul>					
<b>授業計画</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 数学的準備（基本的な，集合論，線形代数，微積分，確率統計）</li> <li>2. 最適化モデルとアルゴリズム</li> <li>3. 機械学習への応用</li> <li>4. Python による演習</li> </ol>					
<b>授業の進め方</b> 輪講形式で進行し，各回の担当者が資料を作成し内容を説明する。モデリングやプログラミングに関する演習も実施予定。			<b>教科書及び参考図書</b> <b>【教科書】</b> 上記のキーワードに関連するものを，受講者の興味に応じて決定する。  <b>【参考書】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• “The Elements of Statistical Learning,” T. Hastie, R. Tibshirani and J. Friedman, Springer, 2009.</li> <li>• 『しっかり学ぶ数理最適化』， 梅谷俊治，講談社，2020.</li> <li>• 『33の素敵な数学小景』， J. Matousek, 日本評論社，2014.</li> </ul>		

<b>試験・成績評価の方法等</b> ゼミでの発表・質疑応答および演習を総合的に評価する。	<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ゼミで取り扱う内容は、みなさんの興味に応じて柔軟に対応します。</li> <li>参考までに過去に学生（他大学）が扱ったテーマの一例を挙げておきます。  <a href="https://bit.ly/39G9H0w">https://bit.ly/39G9H0w</a></li> <li>ゼミの企画は、学生の皆さんの自主性にお任せします。</li> </ul>	
<b>応募に当たっての注意</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ゼミ説明会はオンライン（Zoom）で行います。</li> <li>また、オープンゼミも実施予定です。</li> <li>説明会やオープンゼミに関する情報はMoodleを通じて提供するので、参加を希望される方は以下のコースに登録してください。            「2023年度 経済工学演習に関する案内（伊豆永 洋一）」</li> <li>本ゼミを希望される方は、可能な限り説明会に参加してください。参加が難しい場合は、個別あるいはオンデマンド等にて対応しますので、メールにてご連絡ください。</li> <li>その他にもゼミに関して質問があれば、お気軽にメールにてご連絡ください。</li> </ul> <p>E-mail: izunaga&lt;a&gt;econ.kyushu-u.ac.jp （&lt;at&gt; を @ に置換）</p>	

## 経済工学演習 (小室 ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	微分方程式を用いた数理モデリング	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	小室 理恵	授業対象学生及び学年等	3年次以上
単位数	4単位				
履修条件	基幹教育で必修の数学の授業内容を理解していること.		キーワード	数理モデリング, 常微分方程式	
全体の教育目標	様々な分野における現象を微分方程式で構築し, それらの解のふるまい等を分析をする.		個別の学習目標	教科書を読んで内容を理解するだけでなく, 発展的に学習する能力を身に付ける.	
<b>授業の概要</b> 現象を数式で表すことを数理モデリングという. 微分方程式は数理モデルとしてよく使われる手法であり, 物理や生物の現象を説明するための非常に有効なツールである. 経済学の分野でも微分方程式を用いて様々な数理モデルを構築することができる. また, 最近の大きな関心事である感染症の広がりを表すのにも用いられている. この授業では, 微分方程式を用いた数理モデルを扱う. 様々な分野における現象を微分方程式で表すこと, さらにその解の分析方法についても学習する. 2年目以降の受講者(4年生)とは別に行う.					
<b>授業計画</b> まずは基礎となる常微分方程式の教科書を読み進め, 途中で何度か数理モデルを使った応用例(絵画の年代測定, 感染症の広がり, 生物の捕食-被食関係等)を取り上げる. 基礎知識をある程度得た後, ソフトウェアを用いて数値的解法や解の分析方法を学習する.					
<b>授業の進め方</b> 輪講形式で教科書を読み進める			<b>教科書及び参考図書</b> 【教科書】いくつかの選択肢の中から, 受講者と相談して決定する予定.		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 原則として出席(参加)必須である. 成績は, 授業への参加, 授業での発表等で総合的に評価する.			<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる.		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> 数学が「得意」である必要はないが, 数学に拒否感のない人が対象である.					
<b>応募に当たっての注意</b> ゼミ説明会: 対面とオンラインどちらでも参加可能のハイフレックス形式で行う. ミスマッチを避けるため, ゼミ履修希望者は出席することが望ましい. <b>出席できなかった場合は応募前に必ずメールで連絡する.</b> Moodle のコースページ「2023 年度経済工学演習説明会(小室ゼミ)」に情報を掲載するので, 説明会参加予定者は, 参加方法に関わらず必ず事前にコース登録しておく. <a href="https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/course/view.php?id=47705">https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/course/view.php?id=47705</a> 経済 HP 内の「ゼミナール関連情報」にも情報を掲載予定である. 申込書: 志望理由を重視する. また, こちらから連絡することもあり得るので, 定期的にチェックしているメールアドレスを明記する. メールでの質問は随時受け付ける(rie.komuro'at'econ.kyushu-u.ac.jp 'at'を@に変更する).					



# 経済工学演習

( 松本 浩一 ゼミ )

授業科目名	経済工学演習		講義題目	金融工学・数理ファイナンス	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	松本 浩一	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	線形代数, 微分積分, 基礎的な確率・統計の知識		キーワード	金融工学, 数理ファイナンス	
全体の教育目標	金融工学の専門知識の習得		個別の学習目標	Black Scholes 価格の理解	
<b>授業の概要</b> 金融工学は金融機関における投資, リスク管理, 商品開発などのために発展してきた学問である。最近では, 天候, 地震, 不動産, 企業経営に伴う事業リスク等も研究対象としており, 応用分野は多岐にわたる。今や金融工学は金融機関のみならず, 一般企業にとっても有用な学問である。 本講義は, 金融工学の専門知識を生かした職務を志望する学生, あるいは研究者を目指す学生を対象としたゼミである。ゼミでは特に数理的専門能力の育成に重点を置く。					
<b>授業計画</b> 講義では, 金融工学に関する教科書を分担して精読する。金融工学の専門的知識を深めつつ, 金融市場に関する知識もバランスよく身に付けていくことが重要である。教科書は受講予定者の希望を踏まえて決定する。					
<b>授業の進め方</b> 教科書を分担して担当者が説明し, 質疑応答を行うセミナー形式で行う。		<b>教科書及び参考図書</b> Steven E. Shreve, <i>Stochastic Calculus for Finance I: The Binomial Asset Pricing Model</i> , Springer Verlag, 2003 ジョン ハル, 東京三菱銀行金融商品開発部(翻訳)『フィナンシャルエンジニアリング—デリバティブ取引とリスク管理の総体系』金融財政事情研究会, 2009年			
<b>試験・成績評価の方法等</b> 平素の授業での発表, 質疑応答を総合的に評価する。		<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。			
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> 文理双方の能力を必要とする。数学, 経済, 計算機すべてに意欲的に取り組める好奇心旺盛な学生が望ましい。					
<b>応募に当たっての注意</b> 本ゼミへの参加を希望する学生は説明会に参加し, 定められた日時までに以下の手続きを行うこと。 1. <u>ゼミ説明会は Zoom にて行う予定である。</u> ゼミ説明会の参加希望者には, Zoom の URL を連絡するので, 説明会前日の正午までに下記の講義の Moodle へ登録を行い, Moodle の指示に従うこと。 2022 年度通年・木 4・経済工学演習③(松本 浩一) 説明会で相談時間を設けるが, 説明会に参加できず, 個別相談を希望する場合はメールすること。					

2. 演習参加申込書 (Word) に下記の内容をすべて記述し、事務に提出すること。

- (1) 将来の夢, 展望 (希望職務, 大学院進学等, なるべく具体的に記入)
- (2) 志望動機
- (3) ゼミ関連科目成績 (以下の基幹教育数学の成績は必ず記入, 3年次編入者は対応科目を記入)  
線形代数A 線形代数B 微分積分A 微分積分B  
金融工学・数理ファイナンス関連分野 (数学, 統計, 計算機等) があれば記入
- (4) 自分が当てはまると思うほうを選択せよ。  
数学が (好き, 嫌い), 数学が (得意, 苦手)
- (5) 英語のテキストを使用することは可能か。
- (6) 2年間, ゼミに集中して取り組むことができるか。  
(毎週, 十分な予習が必要となるため, 副ゼミは不可)
- (7) 自己アピール  
(他のゼミ参加者に, どのような貢献ができるか, 理由を明確にして記述すること)

3. 必ず, メールにて松本までゼミ参加希望の連絡をすること。

本文には必ず氏名, 学籍番号を含め, 事務に提出した **Word ファイル複製を添付**すること。  
なお, 重要事項を送付してきたメールに返信連絡する予定であるため, 普段から確認しているメールアドレスを用いること。

ゼミ参加申請後, 参加希望者全員と Zoom による面接を実施する。

# 経済工学演習

( 古川 哲也 ゼミ )

授業科目名	経済工学演習		講義題目	情報システムでのデータ利用	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	古川哲也	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件			キーワード		
全体の教育目標	情報技術を用いたデータ利用を理解する	個別の学習目標	情報システムを活用する上での知識を身につける		
<b>授業の概要</b> 情報化社会といわれる現在では、大量の情報をいかに利用するかということが重要である。本演習では、コンピュータ利用に関する基礎知識を得るとともに、コンピュータを用いて収集したデータを整理、解析し利用できるようにする過程を幅広く検討する。演習は3・4年合同で行う。					
<b>授業計画</b> コンピュータを用いたデータ利用に関する様々な事例について学習する。 第1回 ガイダンス：ゼミの進め方等 第2回以降 報告および討論と情報技術の解説					
<b>授業の進め方</b> 報告とそれに関する討論およびレポート。実習を課すことがある。			<b>教科書及び参考図書</b> 【教科書】 【参考書】 随時紹介する。		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 平素の成績 50%、レポート 50%。 原則として出席は必須。			<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> 情報処理に関する資格(ITパスポート、情報処理技術者など)の取得を推奨している。ゼミの運営には、メーリングリスト、ホームページ、電子掲示板などを活用する。ゼミでは、資料のまとめ方、プレゼンテーション、討論を重視する。また、ゼミ生の企画によるイベント(コンパ、合宿等)を行っている。					
<b>応募に当たっての注意</b> パソコンの操作を始めとする情報技術についての知識は求めない。ゼミへの参加を通じて情報機器を利用するための知識を身につける。 オープゼミは実施しない。ゼミ説明会に参加できない場合は、メールで連絡すること。 furukawa@econ.kyushu-u.ac.jp					

## ※ 2次募集より募集開始

### 経済・経営学演習／経済工学演習 ( 阿部 貴晃 ゼミ )

授業科目名	経営工学演習		講義題目	ゲーム理論とマイクロ経済学	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	阿部貴晃	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	論理的思考ができる人。 積極的に議論ができる人。		キーワード	ゲーム理論・マイクロ経済学・戦略・協力・実験経済	
全体の教育目標	他者に論理的に分かりやすくアウトプットできる。他者の報告に対してコメントすることができる。		個別の学習目標	ゲーム理論・マイクロ経済学を専門的に学ぶ。理論モデルを用いて、社会的現象を分析し議論できる。	
<b>授業の概要</b> ゲーム理論とマイクロ経済学への応用を学習します。3年生はゼミメンバーで共通の教科書を読みそれぞれが発表を行う形式（輪読）で学習します。4年生は各自が興味を持った内容でゼミ論文を作成することを目標とします。今年度のゼミ生が第1期生となります。来年度からは3・4年合同でゼミを行います。					
<b>授業計画</b> （受講者数によって変化します。） 第1回：ガイダンス・自己紹介 第2回以降：輪読と発表					
<b>授業の進め方</b> 各受講者が、それぞれの割り当てられたテキストの章を順々に発表します。発表者以外は質問とコメントをします。4年生はゼミ論文の進捗を報告します。			<b>教科書及び参考図書</b> <b>【教科書】</b> ゼミ生の興味に応じて決定します。基本的にはゲーム理論系の本を想定しています。 <b>【参考書】</b>		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 出席および質問・発表・ゼミ論文から総合的に判断する。			<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> ゲーム理論やマイクロ経済学を用いて、自分の力で数理的なモデルを作成し社会的問題を分析することができるようになることを目指します。卒業時に、「大学でこのような研究をしていました」と言えるようになることを目標とします。担当教員がお酒を飲まないため飲み会はありません。ゼミ合宿やその他の集まりなどもゼミ生の意志に応じて開催します。積極的な方・コミュニケーションを取れる方を歓迎します。					
<b>応募に当たっての注意</b> 今回のゼミ生が第1期生となります。今後の当ゼミの文化を一緒に作ってくれる方をお待ちしています。担当教員が2023年度から着任のため、1次募集は行っておらず2次募集が最初の募集となります。「数理的議論が苦手ではない」「ゲーム理論に関心がある」「ゼミメンバーと仲良くできる」ことを重視します。大学院進学希望者もとても歓迎します。3・4年の二年間受講できる方を歓迎します。 応募者は、「応募理由(200字程度) 」と「これまでの学生生活(字数自由)」を一枚にまとめたPDFを作成し、氏名・学籍番号・メールアドレスを明記の上、担当教員メールアドレス <a href="mailto:takaakiabe3639@gmail.com">takaakiabe3639@gmail.com</a> に送ってください。その後、ミスマッチを避けるため Zoom など個別にお話しをします。堅苦しいものではありません。素直で大丈夫です。					